宇宙海賊の力と共に転生をした五人の女性達の転生者狩り

桐野　ユウ

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ある赤い船、そこに住んでいる五人の美人な女性達、彼女達の目的は一体・・・・・・・様々な世界へと行き彼女達は狩りをする！

そのターゲットは、転生者・・・・・様々な世界へと行き彼女達は戦う。

目次

宇宙海賊 ―― 1
次の場所へ ―― 9
襲い掛かる帝国 ―― 19
次の場所へ ―― 25
海賊合体！ ―― 33
アイガイオン ―― 38
アーマインドの戦力 ―― 47
謎のロボット軍団 ―― 58
怪獣の惑星 ―― 64
引き寄せられる。 ―― 71
眠る慧達 ―― 76
次の場所が学校!? ―― 82
会合 ―― 89
扉から現れた人物 ―― 98
ゴーカイレッド対クウガブレイズ ―― 107
メカゴリラの襲来 ―― 111

宇宙海賊

　ある惑星の巨城…そこに一つの赤い船がその城に大砲を使って襲撃する。城にいる相手は上空にいる赤い船を見て動揺し、驚愕していた。
「な、なんでゴーカイガレオンが!?俺の星に!?なぜだ!!」
　するとそこに五人の女性達が降りてきた。男はその女性達を見てさらに動揺していた。
「な!?」
「あいつで間違いない？」
「ええ、間違いないわ。」
「なら始めようか？」
「そうそう。」
「はい。」
　五人は懐からケータイのようなアイテムと何かのヒーローを見た目に作られた鍵を取り出した。そして変身する準備をするのか、その場で構え出した。
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」

【ゴ――――カイジャーーーーー!!】

五人の人物はアイテムに鍵を差し込んで回したあとに、赤、青、黄、緑、桃のヒーローに変身した。相手の男ははその間に兵士たちを前に出させた。

「ええい！何をしている奴らを撃て！」

「「「御意のままに」」」

「ゴーカイレッド！」

「ゴーカイブルー！」

「ゴーカイイエロー！」

「ゴーカイグリーン！」

「ゴーカイピンク」

「海賊戦隊！」

「「「ゴーカイジャー!!」」」

ゴーカイジャーと名乗った五人の人物達は、それぞれ武器を構えて兵士たちに突撃した。

「ど派手に行くわよ!!」

ゴーカイレッドはゴーカイガンを放ち兵士たちを撃ち放つ。この弾丸には麻酔の効果を持っており、消して殺傷能力はない。

この兵士達は目的である男の手によって操られている兵士にしか過ぎないという判断からである。
「グリーン！」
「分かってるわ！えい！」
ブルーはゴーカイガン、グリーンはゴーカイサーベル、お互いに持っていた武器を投げて交換した。グリーンからゴーカイサーベルを貰ったブルーは兵士達の攻撃を二刀流で弾かせていった。
「私に切れないものなどない！はあああああああああ!!」
一方でゴーカイグリーンはブルーから投げ渡されたゴーカイガンを使った二丁拳銃で、兵士たちを攻撃していた。
「それそれそれそれ!!後ろからドーン！」
「どあ！」
一方でイエローとピンクもお互いにサーベルとガンを交換。イエローはサーベルにワイヤーを装着し、それを振り回して次々に兵士達の武器を壊していく。
「さーてピンク援護いる？」
「大丈夫ですわ！は!!」
ピンクはゴーカイガンで相手の兵士達の武器を弾かせて戦っている隙に、指示をして

いた男性が逃げ出していく。しかしそれをレッドは見過ごさなかった。
「ここは任せたわよ?」
「わかった。」
「しっかりね?」
「はいよ!」
　レッドはゴーカイサーベルを持ちながら走り、襲いかかる兵士達の武器だけを破壊して気絶させて進んでいった。
「全く、こちらは人殺しはごめんだっての!ここかしら?おら!!……違ったわね?」
　次々に蹴りを入れて男性がいる場所を探し出すが、なかなか見つけることができなかった。
　イライラが溜まっていく彼女ではあるが、隠れていると思われる次の扉に対してゴーカイサーベルで切り裂いた。そしてその中には追い詰められて怯えた先程の男性がいた。
「ひぃ!」
「さーて見つけたわよ?あんたの転生特典は……確かギアスだったわね?あの兵士たちを操っているのも全てその力ってことね?なるほど…」
「き、貴様達はまさか!?」

「そう、あたしたちは転生者を狩る戦士よ?さぁ大人しくした方がいいわよ?」
「くそ!」
ギアスを転生特典に持つ男性は逃げ出そうとしたが、それを見失わなかったレッドはゴーカイガンを地面に向けて発砲した。
「ひぃ!?」
「だから大人しくしろって言っているだろうが!こっちは気が短い方なのよ!」
レッドは男性に近づきながら懐から札を取り出してその男性に付けようとした。だが…
「俺の目を見ろ!俺の命令を聞け!」
「・・・・・・・・・・・・・・」
ギアスでレッドを洗脳しようとした男性…だが、彼女にはその力は効かなかった。そしてそのままギアスを平然と無視して男性のおでこに御札を付けた。
「な、なんで!?」
「あーギアス対策はしているのさ、バイザーであんたのギアスを見ないようにしていたわけ。はい転送。」
「そんなあああああああああああああああああ!!」
御札を貼ってとある場所に転送されて行き、ホッとしたゴーカイレッド。他の４人が

相手をしていた兵士達はギアスの効果がなくなったのか、その場で倒れていった。
「終わったみたいね？」
「ええ…だけどどれだけいるのさ？」
「わからないわよ。さて我らのリーダーが帰ってきたわよ。」
ゴーカイレッドが転生者を送り終えたのを見た全員は武器を懐に収納した。
「さーて…とりあえず、ここの転生者は転送したわ。一旦ガレオンへ戻るとしましょう？」
ギアス使いの転生者の城を後にした五人はワイヤーでゴーカイガレオンへと戻ったのだった。
???ｓｉｄｅ
変身を解除をした私達はゴーカイガレオンへ戻った。さて自己紹介としましょう。私の名前はこのゴーカイガレオンのキャプテンを務める「橋野　慧」ゴーカイレッドを担当しているわ。
そして、向こうでゴーカイサーベルを振っているのはゴーカイブルーに変身する「木奈崎　朱里」
あっちで話している二人はゴーカイイエローに変身する「浅倉　真理」とゴーカイピンクに変身する「七島　優奈」。

「みんなっーーー!ご飯で来たわよ!!」
「お!できたのね?」
そう、今調理していた人物こそ、ゴーカイグリーンに変身する「姫島　麗華」よ?彼女の料理は一流よ?
簡単に言えば私達五人は親友。とある事情で死んで、このゴーカイジャーの力を手にして転生したって言った方がいいかしら?
私がいつも座る椅子の隣にある箱……この中を開けると色んな戦隊、仮面ライダー、ウルトラマン、メタルヒーローのレンジャーキーが入っているの。
そんでもって私達は様々な世界へ可能なの。そこで悪さをしている転生者を天界に転送するのが主な使命なの。
「でもさ…本当転生者ってどれだけいるんだろう?」
「さぁ?彼も分かってないって言っていたじゃない。」
「そうだけどさ。」
「それの、ご褒美として……うふふふふ、分かっているでしょ?」
「「「もちろんだよ?」」」
そう、神様との約束……それは神様と結婚……ってか、お嫁さんにしてくれと頼んだよね?それが条件で転生したのだから…

「「「「楽しみだね!!」」」」
さーて今日も転生者を倒していくわよ!ど派手にね?
慧ｓｉｄｅ終了
ここはスフィア天界の一室…
「宇宙海賊?」
「はい。」
神ジオウこと常磐一兎、彼は直属の副官クローントルーパー〈メディス〉から宇宙海賊を名乗る五人組が転生者狩りをしているというのを聞いた。メディスから渡された写真を見た一兎は目を見開きながらその写真を見て驚いていた。
「これは、ゴーカイガレオン?それにゴーカイジャー?しかも女性が?いったいどういうことだ?」
一兎は混乱している中、ゴーカイガレオンは次の場所へと向かって出発する。

次の場所へ

「「宇宙海賊?」」
　三人の人物は、首をかしげながら一人の男性の前に立っている。その人物こそ神ジオウ事常磐　一兎であり、首をかしげている三人の人物は彼の娘常磐　一葉、常磐　冷雨、常磐・T・エーニャの三人である。
「そうだ、この頃スフィア天界にて現れる宇宙海賊たち、彼らの目的は転生者狩りだってことが判明をしたんだ。」
「でもどうしてうちなの?」
「・・・・・・そこなんだ。どうしてロア天界ではなくうちなのか・・・・・・転生者に関してはこちらも徹底をしているみたいだが、どうやら俺がつく前の神たちが色々としてくれたみたいなんだよな。」
　一兎はため息をついていると、次元の扉が現れたのをも見て一兎は立ちあがり三人は振り返ると扉が開いて一人の男性が現れる。
「よう。」
「お前かあああああああああああああ!!」

ロア天界の大天神の一人、如月　戦兎事神エボルトである。彼は挨拶をした後に一兎の攻撃を避けながら椅子に座る。

戦兎のことを襲った一兎はそのままから振って転び、地面に倒れた状態だったが、彼はそんなことも気にしないである話題について話し出した。

「さて君達が抱え込んでいる問題は宇宙海賊のことだろ？」

「知ってるんですね？」

「あぁ、だって今回は俺が関わっているからね。」

「やっぱりお前かい！何やっているんだあああああああああ!!」

「ぬおおおおおおおおおおお！待て!!一兎！そんなに激しく揺らすな！」

「うるせえええええええええ!!」

戦兎の服を掴みながら一兎は椅子ごと激しく揺らして尋問しようとする。だんだんと戦兎の顔が真っ青になっていくのを見た一葉は嫌な予感を感じて苦笑いしながらこう言い放つ。

「お、お父さん……」

「そろそろ離した方がいいと思うよ。」

「何いって「おえええええええええええ！」ぎゃあああああああああああああああああああああああ!!」

服を掴まれて椅子ごと揺らしながら尋問されたせいで顔が真っ青になった戦兎は一兎に向かって嘔吐してしまう。当然、彼を戦兎と物を喰らって撃沈してしまったのだった。

一方ゴーカイガレオンの中にいる慧達は次の転生者がいる場所に向かってゴーカイガレオンを発進させていた。

「さて次のターゲットはどこの世界かしら?」

「いや、世界ってわけじゃないみたいだ。あそこの惑星から反応が出ている。」

「それで相手は何をしたの?」

「・・・・・無理やり女の子を操って殺し合いをさせ…それを見て楽しんでいるらしい。」

「へぇー…女の敵じゃないかしら?」

「そうね。さてやるか!」

ゴーカイガレオンは進路を変更してその星へと向かっている頃、神ジオウの部屋ではゴーカイジャーについて戦兎が一葉達に説明していたのだった。

「つまり、そっちの世界とこっちの世界で転生者達が色々と増えてきたってことか?」

「そう、しかも厄介なことに俺達が管理している場所とは違う管轄外で大暴れしているから色々と情報を得るのに時間がかかったのさ。さらに厄介なことに…その悪質な転生者は色々なアニメの時空を壊す可能性があるんだ。」

「それで派遣されたのが転生者狩りをする彼女達ってことなんですね？」
「そうだ。主にスフィア天界で一兎が担当していないところが酷いらしいからな？ロイヤル様の許可を得て、彼女たちを派遣したってわけ。」
「てか戦兎は、そいつらのことを知っている感じだが？」
「・・・・・・あぁ知っているさ、何にせ俺が紅イクトの時にアリスと取り合い合戦になりそうだった５人組だからな？」
「「「えええええええええええええ!!」」」
　一方、ゴーカイガレオンは例の惑星へと到着。彼女達は船からワイヤーを使って降り立ち、屋敷である場所の扉に対してゴーカイガンを発砲して壊した。
　それに気づいた屋敷の者たちが、例の殺し合いをしている女たちを囲みながら、慧達を見ていた。
「何ゾイ!?お前達は誰ゾイ!?」
　太ったおっさんが現れ、慧達に誰かを問い詰めるが、彼女達はそんなことはどうでもいいのか、無言でゴーカイガンを構えた。
「通りすがりの転生者狩りよ！」
　太った中年のおっさんにゴーカイガンを発砲した慧。それを見て驚いたソイツは部下達に捕らえるように指示を出した。

「やっぱりこうなるのね？」

五人はモバイレーツとレンジャーキーを出してセットしてゴーカイジャーに変身した。

「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」

【ゴ――――カイジャー――――!!】

「ゴーカイレッド！」

「ゴーカイブルー！」

「ゴーカイイエロー！」

「ゴーカイグリーン！」

「ゴーカイピンク！」

「海賊戦隊！」

「「「「ゴーカイジャー!!」」」」

ゴーカイジャーの五人はゴーカイサーベルとゴーカイガンを構えて兵士たちに突撃する。

「ど派手に行くわよ!!」

兵士たちは彼女達に銃を放つが、ゴーカイレッドに変身した慧はゴーカイサーベルを使って弾き落としてゴーカイガンを発砲した。

「どあ！」
「うあ！」
「は!!」
「どへえええええ!!」
「ぞぞ!?」
　追い詰められた太ったおっさんはその場から走って逃げようとした。
「あ！逃げた！」
「ってか兵士たち多くない？」
　同じようにオークみたいに太った兵士達の数が多いのを感じた彼女達はチラッと視線を転生者に合わせる。そして…
「あれをやろうかしら？」
「あれね？」
「あれか。」
「だよねーーー」
「やりましょう。」
　バックルから別のレンジャーキーが現れ、慧達はそれを手に取ってモバイレーツを構える。

「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」

【ゴ――――レンジャー!!】

彼女達の姿はゴーカイジャーから秘密戦隊ゴレンジャーへと姿を変えた。兵士たち全員はその変化に驚いていた。ゴーカイチェンジした5人は構えてある必殺技を放とうとした。

「ゴレンジャーハリケーン！ハリセン！」

「いいわね？行くわよ！真理！」

「任せなさい！麗華！」

「オーライ！朱理！」

「といや！慧！エンドボールよ！」

「ＯＫ！とりゃ！エンドシュート!!」

蹴られたゴレンジャーハリケーンが変形してハリセンとなり兵士たちの頭を叩いて気絶させていく。次々と倒された兵士達を見て不利と見たのか、太ったおっさんの転生者はそのまま後ろの方角へ逃げようとした。

「ここは逃げるゾイ!!」

「逃がすか！レッドビュート！」

「ぞっぞーーーー!!」

アカレンジャーになった慧がレッドビュートを放ち、太った人物の体を巻き付けて駒のように回転させた。
「目が回るぞいいいいいいいいい！」
「さて札札」
朱里が身体を回されて倒れた男の頭に札を張り、天界へと転送させた。仕事という名の狩りが終わった5人は転生者によって苦しめられた女性達を助けるために、中へと突入する。
5人は散開し、行く手を阻む扉や障害物をゴーカイサーベルとゴーカイガンで壊し、ドアを開けた。かなり厳重に閉められたドアをこじ開けた彼女達はその先にある恐ろしい光景に絶句してしまう。なぜなら…
「うへへへへへへ・・・・・・・・」
「げへへへへへへ・・・・・・・・」
既に転送された男によって精神を壊された女性達だった。アヘ顔になっているものやうつろで何にもできないもの……さらには両手でピースをするものまで…慧は呆れて何も言えないのか、女性達の中の1人に手を振って意識があるのかを確認したが既に時遅し、彼女は反応を示さなかった。首を横に振りながらあることを言い放つ。
「慧！」

「・・・・・・精神崩壊ね。奴にどれだけのことをされたのかしら？」
「こっちも同じだ。・・・・・・私だ。」
『こっちも精神崩壊の女性ばかりだよ。そっちは？』
『こちらもです。』
「そうか、慧…聞いての通りだったな？」
「えぇ……さてどうしたものか。彼女達にも札を張って送った方がいいかしら？」
「そうしてみたら？」
「やってみましょう。」
　そういって札を張り転送をさせていく。一方で戦兎は一兎と共に転送されてきた女性達を見て驚いてしまった。
「これは・・・・・・」
「精神が崩壊している!?」
「「えへへへ……」」
　戦兎は転送された女性達の中の1人に手を乗せ、彼女達の記憶を見るために念じ出す、例の転生者によって精神が破壊されてしまった人物達で間違いないと判断した。
「どうするんだ？」
「ロア天界の病院へ転送する。あそこなら治してくれるだろうな。」

戦兎は送られてきた女性をロア天界の精神病院科の方へと転送を行うことにした。
そして今回の1件を終えた彼女達はゴーカイガレオンに搭乗。次の場所へと向かって発進したのであった…

襲い掛かる帝国

慧ｓｉｄｅ

精神崩壊を起こした女性達を、天界の方へと天装をした私たちは、次の場所へ向かってゴーカイガレオンは宇宙空間を飛んでいた。

だが突然として砲撃を受けたので、一体何かとモニターを表示をさせる。

「あれって、確かスフィア天界の中で暴れているという帝国という組織の戦艦よ！」

「まじで？」

なんで、帝国の戦艦がこちらに砲撃をしてくるのよ！ならこっちも反撃をさせてもらうわ！

「ガレオンキャノン、主翼のビーム砲スタンバイ！」

「了解。」

「ターゲットロック！」

「発射!!」

ゴーカイガレオンからビーム砲やガレオンキャノンの砲撃が放たれて、帝国の戦艦に命中させて撃墜させているが、数はあちらの方が多いので戦っていてもきりがないわ。

仕方がない・・・・・・・

「真理！近くの星へと全速前進！奴らを迎えうつわよ！」

「はいよ！面かじ一杯！」

ゴーカイガレオンが反転をして近くの星へと向かっていくと帝国の戦艦もこちらを追いかけてきた。

ビーム砲を放ちながら星の方へと降下をして着地をする。相手の戦艦も着地をしてドロイドや見たことがない仮面ライダーでいいのかしら？そんなのを使ってきている。

「さて、降りて戦うとしましょうか？」

「そうだね。」

「やりましょう。」

「私達に喧嘩を売ったこと後悔させてやる！」

「参りましょう。」

私達五人は降りて、帝国と戦うためにモバイレーツとレンジャーキーを構える。

「宇宙海賊ども！よくも我ら帝国の船を落としてくれたな！やれ！ドロイド！仮面ライダーソルジャー軍団！」

『『『ぎーーーー！』』』

仮面ライダーソルジャーってのは聞いたことがないけど、まぁ敵ってことでいいのよ

ね？さぁていきましょう！

「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」

慧ｓｉｄｅ終了

【ゴ――――カイジャー――――!!】

ゴーカイジャーへと変身をした五人は、ゴーカイガンとゴーカイサーベルを構えて突撃をする。

ドロイドたちは銃を持って攻撃をしてきたが、ゴーカイガンを放ちながら接近をするゴーカイジャーの攻撃で破壊されて行く。

ソルジャー部隊は突撃をして攻撃をしてきた。

「おっと危ない！」

「こいつら・・・・・ロボットか？」

「わかりませんが、どうします？」

「なら仮面ライダーは仮面ライダーで対抗をするわよ？」

「了解。」

「はい。」

「あいよ！」

「わかった！」

バックルから仮面ライダーキーがをとりだしてモバイレーツを構える。
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
【カーメンライダー!】
【1号!】
【RX】
【クウガ!】
【ジオウ!】
【ゼロワン!】
ゴーカイレッドが1号ライダー、ブルーがRX、イエローがクウガ、グリーンがジオウ、ピンクがゼロワンに変身をして仮面ライダーソルジャー軍団に突撃をする。
「はあああああああ!ライダーチョップ!」
連続でライダーチョップをソルジャーに叩きこむ、後ろから襲い掛かってきたソルジャーに対してはつかんで投げ飛ばす。
RXは飛びあがりRXキックを放ちソルジャー2体を吹き飛ばす。
「リボルケイン!」
リボルケインを抜いてソルジャーのボディを切りつける。クウガはソルジャーに対して殴りかかる。

「おりゃ！せい！は！」
ソルジャーに殴った後後ろの方へと投げ飛ばすと足部にエネルギーをためたマイティキックを放ちソルジャー2体を撃破した。
ジオウとゼロワンはそれぞれジカンギレード、アタッシュカリバーを装備をしてソルジャーのボディを切りつける。
「今だよ慧！」
「おう！ライダーキック!!」
1号ライダーは飛びあがり必殺のライダーキックを放ちソルジャー軍団を吹き飛ばして爆発させる。
「何?」
ゴーカイジャーの姿へと戻ると、ゴーカイサーベル、ゴーカイガンを構えてレンジャーキーが2個ずつ刺さり、セットをする。
【ファーイナルウェ――――ブ！】
「さーて決めるわよ！」
「「「おう!!」」」
「「「「ゴーカイブラスト＆スラッシュ！は!!」」」」
ゴーカイガンから弾丸を放ち、ゴーカイサーベル斬撃が加わった攻撃が帝国のドロイ

ドやソルジャーたちに命中をして撃破された。
「ば、馬鹿な！我が帝国のドロイドたちを！おのれ覚えていろ!!」
　司令官と思われる人物は船の方へと撤退をしていき、彼女達もゴーカイガレオンへと帰投をする。
「それにしても帝国がどうして私たちを攻撃をしてきたのかしら？」
「まぁこの船、目立つ色をしているからな。」
「確かにね、それで攻撃をしてきたじゃないの？」
「いずれにしても、これからの戦いであいつらは厄介ね。」
「確かに転生者狩りの邪魔でもされたら厄介だわ。」
「まぁとりあえず、麗華！ご飯ご飯！」
「わかっているわよ！すぐに作るわ！」
　麗華はすぐに調理室の方へと移動をして5人分のご飯を作るのであった。

次の場所へ

帝国が戦艦を使い襲い掛かってきた、慧達は近くの星に降下をして迎え打ちドロイド、仮面ライダーソルジャー軍団を撃破して相手は撤退をする。

次の場所へと向かうため、ゴーカイガレオンは降下をした星から脱出をする。

「さて、次の場所はどこかしら?」

「そうだな・・・・・今降下をした星から、少し離れた場所に時空空間がある。そこを通ることになるな。」

「なら対ショック態勢をしておかないといけないわね。」

慧はそういい、真理は舵を操作をしながらゴーカイガレオンは時空空間の穴へと向かって出発をする。

「転生者狩りをする海賊・・・・・・か。」

だがゴーカイガレオンを見ている一人の人物がじーっと見ていた。すると攻撃が放たれてその人物は交わす。

【仮面ライダージード!バットエンペラー!】

「ほーう、クローン連合軍最高指導者様が何かご用ですかな?」

「ごまかすのはいいかげんにしろ！貴様だろ？ライトセイバーを一本奪った人物は。」
「ほほーう、流石とだけ言っておきましょう。」
「悪いが返してもらうぞ!!」
　ジードは接近をして相手からライトセイバーを取り返そうとしたが、相手はすぐにスフィアブックを出してその中へと消える。
「な!?」
『悪いのですが、今、あなたに邪魔をされるわけにはいきません。ではアデュー！』
「くそ！」
　ジードは取り逃がしてしまい、相手はスフィアブックを使っていたのを見てこの天界の者が何かをしようとしているのは間違いないと判断をして、彼は一旦自分の船の方へと帰投をする。
　一方で次元を超えたゴーカイガレオン、彼女達はセンサーをチェックをして転生者と思われる者たちがいる場所へと向かうと一人の幼女に対して二人の男性が何かをしようとしているのを見た。
「ぐへへへへへ！」
「た・・・助けて・・・・・・いや、パパ・・・ママ・・・・・・」
「無駄だよ、君のお父さんたちはすでに死んでいるからね。ぐへへへへへへ!!」

すると男たちは化け物の姿へと変貌をして女の子は涙を流してしまう。すると弾丸が放たれて二人の胴体に命中をする。

「だ、誰だ!!」

化け物二人は振り返ると撃ったであろう五人組の女性が立っていた。

「随分と幼女を狙う化け物なことね?」

「なんだテメェラは・・・・・俺達の邪魔をするってか?」

(ねぇ、あいつらって転生者?どうみても化け物よね?)

(あぁ、しかもセンサーはこいつらを指していない。だが・・・・・・)

(おそらく、私達がいなくなったらなあの子は絶対に死ぬわね。なら仕方がないわ正義の味方として助けるとしましょう?)

(((おう)))

彼女達は幼女を助けるため、モバイレーツをとりだしてレンジャーキーを構える。

「なんだ?」

「鍵?」

「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」

【ゴ――――カイジャー――――!!】

彼女達はゴーカイジャーへと変身をして化け物たちは驚いているが、ゴーカイガンを

発砲をしてダメージを与える。
「どあ!!」
「今日はど派手にウルトラマンキーを使うわ！」
「あぁ！」
「了解！」
「わかった！」
「はい!!」
　ゴーカイバックルからウルトラマン達の形をしたウルトラマンキーが現れてモバイレーツを構える。
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
【ウーールトラマン！】
【ウールトラセブン！】
【ウールトラマンジャック！】
【ウールトラマンエース！】
【ウールトラマンタロウ！】
　ゴーカイジャーの姿が変わり、ウルトラマン達の姿へと変わった。
「な、なんだ!?」

「海賊版ってやつね？ヘア！」
　五人は走りだして、怪物たちは彼女たちを倒す為走りだす。
「おらああああああああああー」
「ふ！」
　怪物の剛腕を受け止めると、横からブルーが変身をしたセブン、イエローが変身をしたジャックが胴体に蹴りを入れる。
「どあ！」
「くらえ！スラッシュ光線！」
　レッドが変身をしたウルトラマンがスラッシュ光線を放ちダメージを与える。
「エメリウム光線！」
「フォッグビーム！」
　ダブル光線が命中をしてダメージを与える。グリーンが変身をしたエースとピンクが変身をしたタロウ、怪物は目から光線を放つが二人は交わして飛びあがりスワローキックが命中をした。
「どあ！」
「はああああああああああ！スラッシュ光線!!」
　連続した光弾が放たれてダメージを与えるとタロウが連続したパンチを放つ。

「せいせいせいせいせいせいせい！せいやあああああああああああ!!」
「ぐうううう！」
　怪人が吹き飛び、五人は並びゴーカイジャーの姿へと戻りゴーカイサーベルを構えてレンジャーキーをセットをする。
【ファーイナルウェーブ!!】
「「「「は!!」」」」
　ゴーカイスラッシュが放たれて一体はもう一体を盾にした。
「「「「な!?」」」」
「て、テメェ・・・・・・ぐあああああああああああああああ!!」
　一体は爆発をして、もう一体はその爆発を利用をして逃げていく。レッドはちらっと泣いている女の子のところへと行く。
「お父さん・・・・・・お母さんが・・・・・・死んじゃった・・・・・・私、一人になっちゃった。」
「おじいちゃんやおばあちゃんは？」
「・・・・・・・・・・・・・・」
「そう・・・・・・・」
　慧はどうしたらいいのかな？と考えてうーーんと悩んでいると、朱里、真理、優奈、麗

華の四人も同じように考えている。
　慧は思いついたのか、彼女に話しかける。
「ねぇあなた、行くところがなかったらうちらと一緒に行かないかしら？」
「お姉ちゃん達と？」
「えぇそうよ。どうかしら？」
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」
　女の子は少し考えてから、慧の手を握りしめる。
「お願いします。何でもしますから・・・・・・」
「ＯＫ、さて自己紹介ね？私は橋野　慧、まぁキャプテンって呼んでもいいわ？」
「はい！キャプテン！あ・・・・・・私の名前教えていなかったです。私は・・・・・・
前島　愛奈といいます！」
「前島　愛奈・・・・・・ならアイちゃんね？よろしくねアイちゃん。」
「はい!!」
　こうして彼女達は救出をした前島　愛奈、通称アイちゃんを仲間に加えて一旦ゴーカイガレオンの方へと帰投をすることにした。
　一方で仲間を盾にしてこの場から逃げた怪人。
「くそ、あいつらのせいで飯が食えなかったわ！ん？」

怪人は前の方で人間がいるのを見つけて、襲うことにした。怪人は爪を伸ばして殺そうとしたが・・・・・・逆に自身の胴体が貫かれているのに気づいた。
「な・・・何?」
「・・・・・・・・・なんだ?肩の怪人が襲い掛かってきたのか、まぁいい・・・・・・さぁ闇の力で大きくなるといい。」
「ぐおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!」

海賊合体！

新たな仲間前島　愛奈を加えた宇宙海賊たち、彼女達は次の場所へと向かおうとした時街が突然として爆発をしたのでいったい何が起こっているのかモニターで見ていると先ほど取り逃がした怪物が巨大化をして暴れている。

「おいおい巨大化をするなんてね。」

「どうする慧？」

「そうね、総員戦闘配置！アイちゃんはそこでシートベルトをして座っていてね？」

「はい！」

愛奈はシートベルトをして椅子に座ったのを確認をして、ほかのメンバーは移動をして慧はモバイレーツとレンジャーキーを構える。

「ゴーカイチェンジ！」

【ゴーーーーカイジャアアアアアアアア！】

ゴーカイレッドになり通信をする。

「全機発進準備はいいかしら？」

『あぁ！』

『ＯＫ！』
『うん！』
『はい！』
「ゴーカイマシン！ＧＯ!!」
ゴーカイガレオンからマシンが次々に現れてゴーカイガレオンの周りに飛んで走って怪物に砲撃をしてダメージを与える。
「さて行くわよ！」
「「「「海賊合体!!」」」」
ゴーカイガレオンにゴーカイマシンが両手、両足へと合体をして最後にヘルメットをかぶり腰のゴーカイケンを抜いて着地をした。
「「「「完成！ゴーカイオー!!」」」」
ゴーカイオーへと合体をして怪物はゴーカイオーに対して口から光線を放ってきた。
「「「「は!!」」」」
ゴーカイケンで光線を切断させてそのまま突撃をしてゴーカイケンの連続した斬撃で怪物のボディを切りつけて蹴りを入れる。
怪物は剛腕で攻撃をするも、ゴーカイオーは交わしてから飛びあがり連続した蹴りを噛まして着地をする。

「一気に決めるわよ!・レンジャーキーセット!・レッツゴー!」
ハッチが開いて胸部から砲塔が現れて玉が各マシンに現れる。
「「「「ゴーカイスターバースト!!」」」」
胸部の砲塔から砲撃が放たれて怪物に次々に命中をさせていき撃破した。ゴーカイレッドはあの怪物に巨大化をするだけの力が持っていたのだろうか?と思いながら、次の転生者を狩るためにゴーカイオーを分離させてゴーカイガレオンへと戻り次の場所へと向かう。
その様子を見ている人物は、本を持ちながら笑っている。
「やはり、あの怪物では奴らの相手にはなりませんか・・・・・・まぁいいでしょう。我らの計画は始まったばかりなのですよ。」
そういって相手は次のターゲットを探すためにスフィアブックを開いて次の場所へと向かっていく。
慧ｓｉｄｅ
怪物を倒して、次の転生者を探すためゴーカイガレオンは再び次元の中を飛んでいる。アイちゃんは優奈のところで移動をして掃除の仕方などを教えてもらっている。
私はいつも座る席でレンジャーキーなどが収納されている宝箱、この中にレンジャーたちのキー以外にメタルヒーロー、カメンライダー、ウルトラマン達のキーが入ってい

る。
　まぁここは私の定位置でもあるからね。それにしても・・・・・・いったいあの化け物は巨大化をする能力を持っているとは思ってもいなかったわ。
　ゴーカイオーの初の運転を試すことになったが、いったい誰が?
「何を考えているの慧。」
「朱里・・・・・・いや、あの化け物が大きくなる能力を持っていたのかしらって思ってね。最初に倒した時には巨大化をしなかったから、誰かが意図的に巨大化をさせたとしか思えないのよね。」
「なるほどな、確かにお前の言う通りに誰かが裏から意図的にやった可能性もあるわね。」
「ええ、いったい誰がやったのだろうかと思ってね。不思議に思ったのよ。」
　次の場所へと向かう時に、麗華がふぃといいながら現れる。
「あら麗華、何かしていたの?」
「まぁね、新しい武器を開発をしていたところかな?」
「「新しい武器?」」
　まさかの新武器が完成をしようとしているのかしら?それでどのような武器なの?
「これこれ」

そういって出してきたのはガンブレード？でいいのかしら？

「ガンブレード？」

「そうそう、ゴーカイガンとゴーカイサーベルを合体させたものって言った方がいいかな？レンジャーキーは二つ同時に刺すことができるんだよね。ほらここと、だけどまだ完成はしていないからここからだね。」

麗華は見本を見せに来たみたいで、ここから完成をさせてくるということで部屋の方へと戻っていく。まぁガンブレードなので私が使用をする感じかな？状況でゴーカイサーベル、ゴーカイガンって感じでいいのかな？

「さぁな、どのような武器になるのか楽しみにって感じだろ？」

まぁね、楽しみにしか思えないわけねふふふふふ、さて次の転生者を探して次の場所へと向かうとしましょう。

アイガイオン

ゴーカイオーで巨大化した怪物を倒したゴーカイジャーの面々は次の転生者を探すため次の次元へと移動をする。

一方でスフィア天界

「ライトセイバーを盗まれた?」

神ジオウは、月夜からライトセイバーを盗まれたという報告を受けていた。相手はスフィアブックを持ちその場を去っていくというのを聞いて、アーマインドが動いたのか?と思いながら彼は警戒はしておくようにといい、月夜は自分の船へと戻っていく。

一方でゴーカイジャーの面々は次の転生者がいると思われる惑星に到着をしてゴーカイガレオンを着地させる。

「さてここが転生者がいるってうわ!!」

突然としてゴーカイガレオンが揺れたのでいったい何があったのかと見ていると、地上から岩がゴーカイガレオンを攻撃をしてきた。

「なんだいったい!?」

「とりあえず外へ出るわよ!アイちゃんは留守番!」

「はいなのです!!」
　五人は外へと出ると岩の物体が合体をして顔がパンダのような怪人が現れる。
「何者よあんた!」
「おいらはーーアイガイオンって奴なんだなーーー」
「アイガイオン?」
（それって確かＷＩＩのゲームに出てきたスーパー戦隊の敵よね?）
（確かそうね。）
　真理と麗華がひそひそと話をしている中、アイガイオンは岩を放ってきた。五人はゴーカイガンを放ち岩を破壊する。
「おやーおいらの岩を壊しただかーーー許さんぞーーーー」
　アイガイオンが襲い掛かろうとしたので、五人はモバイレーツとレンジャーキーを出して構える。
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
【ゴ――――カイジャー――――!!】
　ゴーカイジャーへと変身をして、ゴーカイガンを放ちながら突撃をする。
「「は!!」」
　ブルーとイエローがゴーカイサーベルを振り下ろすが、アイガイオンは右手で受け止

めると二人を吹き飛ばす。
「「は!!」」
　レッド、グリーン、ピンクがゴーカイガンを放ちアイガイオンのボディに当てるが、彼はあまり効いていないのか三人に左手を振り下ろして地面を叩いて衝撃波が放たれる。
　三人は交わしてイエローとブルーが合流をする。
「あいつ厄介じゃない?」
「だな。」
「どうします?」
「ならゴーカイジャーの力を見せましょうか?」
「だな。」
「はい。」
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
【ゴーセイジャー!】
　五人がゴセイジャーへとゴーカイチェンジをしてゴセイウェポンを構えて突撃をする。アイガイオンが振り下ろすが交わして突撃をする。
「スカイックソード!」
「スカイックショット!」

「ぬおおおお」
「ランディックアックス！」
「ランディックククロー！」
　レッド、ピンク、ブラック、イエローがそれぞれの武器でアイガイオンのボディを攻撃をした後、アイガイオンの攻撃を交わす。
「シーイックボウガン！」
「ぬおおおお・・・・・・」
「さらに行くわよ!!」
「「「ゴーカイチェンジ!!」」」
【カークレンジャー!!】
　五人はカクレンジャーへと変身をして、カクレイザーを放ちアイガイオンにダメージを与える。
「「「カクレマル!!」」」
　五人は素早く移動をしてカクレマルの連続した斬撃を浴びせていきアイガイオンにダメージを与えていく。
「おいら、負けないだよおおおおおおおおお!!」
「こいつ堅くない!?」

「厄介すぎるわよ！」
　カクレンジャーの姿のまま五人はアイガイオンの堅さに驚いており、アイガイオンは両手を振るい五人を吹き飛ばす。
「「「「うわ!!」」」」
「これで終わりにするだよおおおおおおおお！」
　アイガイオンは五人にとどめを刺すため突撃をしてきた。だが彼女達はモバイレーツを出してゴーカイチェンジをする。
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
【ギャバーン！】【シャリバーン！】【シャーイダー！】【ジャースピオン！】【スーピルバン！】
　五人は飛びあがりレーザーブレードを構える。
「ギャバンダイナミック！」
「シャリバンクラッシュ！」
「シャイダーブルーフラッシュ！」
「コズミックハーレー！」
「アークインパルス！」
　五人が一気にアイガイオンに斬撃を浴びさせて大ダメージを与えるとアイガイオン

はそのまま後ろの方へと倒れて爆散をする。
「ふぅ・・・危なかったわね。」
「でもどうしてアイガイオンが?」
その様子を見ている人物は、スフィアブックを開いて何かを投げつけるとアイガイオンが巨大化した。
「うおおおおおおおおおおお!!」
「巨大化をした!?」
「ゴーカイガレオンに戻るわよ!」
ゴーカイジャーはゴーカイガレオンに戻り砲撃をしながら浮上をする。そしてゴーカイマシンが展開されてゴーカイオーへと合体をして着地をする。
「「「「完成ゴーカイオー!」」」」
「うおおおおおおおおおお!!」
アイガイオンは咆哮をしてゴーカイオーに突撃をして剛腕を振り下ろしてゴーカイオーを吹き飛ばした。
ゴーカイオーは吹き飛ばされたがすぐに立ちあがりゴーカイケンを構えて振り下ろすが、アイガイオンの堅い装甲に驚いてしまう。
「な!?」

「うおおおおおおおおおおお!!」
　そのまま剛腕を受けてダメージを受けてしまう。
「どうするのおおおおおおおおおお!」
「だったら戦隊の大いなる力を使いましょう!」
「だな!」
「だね!」
「はい!」
「あいよ!」
「「「「レンジャーキーセット!レッツゴー!!」」」」
　ハッチが開いて現れたのはマジドラゴンだった。マジドラゴンはゴーカイオーへと合体をする。
「「「「完成マジゴーカイオー!!」」」」
　マジゴーカイオーへと合体をしたゴーカイオーは飛びあがり、ドラゴンの口から火炎放射が放たれてアイガイオンにダメージを与える。
　アイガイオンは攻撃をしようとしたが、マジゴーカイオーは飛びあがり剛腕を交わして連続した蹴りを入れて吹き飛ばす。
「うおおおおおお!!」

「決めるわよ！」
「「「おう!!」」」
「「「「ゴーカイマジバインド！」」」」
　分離をしたマジドラゴンがアイガイオンの周りを飛び魔法陣で体を巻き付かせてから誤植のビームを放ちアイガイオンは爆発をした。
「よし・・・・・・」
　ゴーカイレッドは爆発をした場所へと行くが、アイガイオンの死体などがなかったので驚いている。
「こりゃあいったい・・・・・・!!」
　ビームが放たれてゴーカイサーベルではじかせる。
「何者!!」
「流石転生者狩りをする方たちですね。」
　一人の人物は放ったであろう銃を持ち構えていた。ゴーカイレッドも左手にゴーカイガンを構えており、彼女は相手から放たれる覇気を感じており嫌な感じをしていた。
（何こいつ、こいつからはとても嫌な感じがするわ。）
「アイガイオンでは駄目でしたか、神エボルトを倒す為には・・・・・まだまだ足りないわね。」

「神エボルト・・・・・・お前何が目的だ！」
「決まっていましょう！私の目的は神エボルト、神ジオウに復讐をするためですよ！」
「させると思っているのかあああああああああああああ!!」
　ゴーカイレッドは接近をしてゴーカイサーベルを振るうが、交わされる。
「はっはっはっは！好きな人が殺されると知って怒り心頭ですね！ゴーカイレッド！」
「うるさい！彼をイクト君を殺させてたまるか!!」
「ですが、私の復讐は始まっているのですよ！では私はここで・・・・・・覚えておきなさい！私の名前はアーマインド！神エボルト達に復讐をするものなり!!」
　そういってアーマインドは姿を消した。彼女は地面にゴーカイガンを発砲をして怒りを鎮めていた。
「すーーー・・・・・・ふぅ落ち着いたわ。」
『どうした？いきなり切りかかっていたが・・・・・・』
「神エボルトに復讐をするという相手とあったのよ。」
『『『『!!』』』』
「そんなことあたしたちがさせるわけないでしょうが!!覚えてなさい！次はあたしたちで撃つ!!」
　ゴーカイレッドはゴーカイガンを上空へ発砲をしてマジゴーカイオーへと戻る。

アーマインドの戦力

ゴーカイジャーの五人は、アーマインドが出したアイガイオンをゴーカイオーで倒した。そしてゴーカイレッドの慧はアーマインドと交戦をして彼女の目的が神エボルト達の復讐と聞いてイライラを解消させるためゴーカイガンを地面に発砲をする！

そしてゴーカイガレオンは再び転生者を狩るため次の場所へと移動を開始していた。

慧は自分の椅子に座りながらも、アーマインドの目的が神エボルト達に対して復讐をするということを言っていた。

それはすなわち彼の命を奪うってことである・・・・・・

「っておい！俺はいいのかよ！」

「いいじゃないか？だってお前関わっていないだろ？」

「んだと戦兎！」「やるか馬鹿一兎！」

・・・・・・とまぁこの二人のコントはほっておいて「「誰がコントだ!!」」朱里は、慧の隣に立ち話をする。

「全く、少しは冷静になれ。」

「私は冷静よ朱里。」

「そんなわけないだろ？奴が言った言葉・・・・・・神エボルト達に復讐をする。それはあいつの命を奪うってことを・・・・・・」
「わかっているじゃない。イクト君もひどいと思わない？そんなこと一言も言わなかったわ。」
「それがあいつが隠したいことじゃないのか？一人で抱えることが多い・・・・・・あいつは転生をしても変わっていなかった。いや大天神？だっけ？それになっていても変わらないままだ。」
「全く・・・・・・イクト君め・・・・・・」
「悪かったって、色々とあるんだからよ。」
「それなら話してくれても・・・・・・って・・・・・・」
「「うえええええええええええ!!」」
「何何？」
「どうしたのよ！」
「あら？どうしましたか？」
「「「えええええええええええええ!!」」」
「「「「イクト（君）!?」」」」
慧が声が聞こえた方角を見て朱里も同じように見たら、一人の男性が立っており二人

の大声でほかの三人も来た、その人物こそ先ほどまで命が狙われていると言われている人物神エボルト事如月　戦兎、またの名を紅　イクトその人であった。
「な、なんでイクト君がここにいるの!?」
「んーーーーーーーーなんとなく?」
「「「「ずこおおおおおおおお!!」」」」
「まぁ冗談はやめておくさ、実は・・・・・アーマインドについてのことをな。少しだけわかったことがある。」
「わかったこと?イクト君が狙われる理由があるってこと?」
「そうだ。なぜ奴が俺たちを恨んでいるか・・・・・それは俺達が奴の組織を潰したことから始まった。」
「ある組織?」
「そう名前は「ケルベロス」という組織、俺、一兎、カズマの三人でその組織を壊滅をさせたことがあった。その時にいたのがアーマインドだった。だが奴は突然として次元ホールを発生させて逃走・・・・・以降は姿を見せなかったが。バーベルトの時に現れたのをきっかけに俺たちを殺すために戦力を集めているってことだ。」
「「「「・・・・・・・・・・・・・・・・・・」」」」
「しかし、奴がスフィア天界の方で拠点をしているとはな、なるほど・・・・・ケルベ

ロス自体が次元空間の中にあったのだからな。」
「イクト君はどうするの？」
「どうするのか？決まっているだろ？奴を見つけて倒すそれだけだ。じゃあ頼んだ慧達、忘れるな？アーマインドの力はあれだけじゃないってことを・・・・・そして自分たちから戦いに行かないこと、それだけは守ってくれ。」
　そういって彼はアーマインドを探すためスフィア天界のあっちこっちへ向かうことになった。
「と言われてもね？」
「あぁ、イクトの奴・・・・・無理をするじゃないかと思うとね。」
「うん、イクト君のこと余計に心配になるよ。」
「あれ？キャプテン皆さんどうしました？」
「アイちゃん、終わったの？」
「はい！お風呂掃除完了です！」
「ありがとうアイちゃん・・・・・・」
　一方でアーマインドは月夜から盗んだライトセイバーを解析を行っていた。その後ろを誰かがやってくる。
「アーマインド。」

「これはこれは、ゲルダリオス様。」
「ふむライトセイバーを解析を行っていたのか?」
「はい、なかなかいいものでしたので・・・・・・それで?」
「うむ、我らの組織ゲルベロスは神エボルト達により滅ぼされた。残されたメンバーも少ない状態になってしまった。」
「はいそのため、現在は戦力を集めるためアブソリューティアン達の技術を使い様々な並行世界から集めております。」
「うむ、我らの目的のため・・・・・・」
「はい!必ずや!!」
ゲルダリオスは後にして、アーマインドは改めてライトセイバーの解析を進めていく。そのころ!ゴーカイガレオンは次元を超えて別の場所に到着をした。
「さーて気を取り直して転生者狩りを開始をしましょう?」
「ここが今回のターゲットの二人がいるという場所だ。」
「へぇー二人組ってのも珍しいわね。」
五人は今回のターゲットを確認をして、その目的の人物が現れたので降り立つ。
二人組は発砲をしながら現れた五人組に驚いている。
「なんだお前達!」

「転生者狩りといったら？」
「お、お前達が！行くぞ相棒！」
「おう!!」
　二人にバッタ型が飛んできてキャッチをする。
「「変身!!」」
【チェンジ！キックホッパー！】【パンチホッパー！】
　二人はキックホッパーとパンチホッパーへと姿を変えたのを見てゴーカイジャーに変身をして構える。
「ゴーカイジャーだと!?」
「だが兄貴！俺達は強い！」
「あぁ行くぜ!!」
　二人は走ってきた、ゴーカイジャーの面々はゴーカイガンを発砲をして攻撃をするが二人は交わして攻撃をしてきた。
　レッド、ブルー、イエローがキックホッパーに対して、グリーンとピンクがパンチホッパーと交戦をする。
「は!!」
　キックホッパーの蹴りをレッドが受け止めてブルーとイエローがゴーカイサーベル

を振るうがキックホッパーは後ろの方へと交わすとクロックアップをして三人を吹き飛ばす。
「だったら!!」
「「ゴーカイチェンジ!!」」
【ゴーバスターズ！】
　レッドバスター、ブルーバスター、イエローバスターへとゴーカイチェンジをしてレッドバスターが高速移動を使いクロックアップに対抗をするためソウガンブレードで相対をする。
　二人は音を察して、ブルーバスターは右手にエネルギーをためて地面を叩いてキックホッパーの動きが止まったの見てイエローバスターはイチガンバスターを構えて飛びあがり発砲をする。
「ぐ！」
「は!!」
　そのまま離れていたため動きを止めてなかったレッドバスターがソウガンブレードでボディを切りつける。
　パンチホッパーと交戦をするグリーンとピンク
「「ゴーカイチェンジ!!」」

【カーメンライダー！】【カブト！】【ファイズ！】
仮面ライダーカブト、ファイズに変身をしてファイズはファイズアクセルのミッションメモリを外してセットをする。
【クロックアップ！】【ｓｔａｒｔ　ｕｐ！】
お互いに高速移動の戦いが始まり、カブトがカブトクナイガンを構えてパンチホッパーに切りつけるとファイズがファイズショットを構えてグランインパクトを放ち吹き飛ばす。
「ぐ！」
【クロックオーバー】【タイムアップ】
五人は勢ぞろいをしてキックホッパーとパンチホッパーの二人は構え直す。
「馬鹿な！俺達が！」
【ＯＮＥ　ＴＯＯ　ＴＨＲＥＥ！】【エクシードチャージ！】
「は!!」
２人は飛びあがりファイズポインターからマーカーが射出されて動きが止められてしまう。
「ライダーキック！」
【ライダーキック！】

ゴーバスターズにチェンジをしている三人はソウガンブレードとイチガンバスターを合体させてスペシャルバスターモードにして構える。
「「は!!」」
三人が放ったスペシャルバスターの砲撃とライダーキックとグリムゾンスマッシュが命中をして二人は吹き飛ばされて変身が解除される。
「がは!」
「ば、馬鹿な・・・・・・・」
レッドは札を張り転送される。
「転送完了っと」
「お疲れ様だな?」
「まぁね。」
ゴーカイジャーへと戻り、転生者達の二人に札を張り天界へと転送をする。一方で神エボルトは?
「着光!」
光りだしてかつてバーベルトが装着をしていたアーマーを改造をして自身のアーマーとして蘇らせた。
「着装戦士!・「マックスレイダー!」」

「「ぐおおおおお・・・・・・・」」

相手は右手に持っている銃をマックスレイダーに発砲をしてきたが、彼は飛びあがり右腰からレーザースナイパーを抜いて発砲をして追撃をする。

「マックスバルカン!」

肩部からバルカンを放ち相手のロボット一体を撃破すると後ろの方から攻撃をしてこようとしてきたので、左手にマックスシールドを発生させる。

「マックスシールドブーメラン!」

シールドが発射されてヨーヨーのように操り切り裂いていく。これは仮面ライダーフィストータスモードのトータスシールドの力をつかっている。

ロボット一体切り裂いた後に背部に手をとる。

「ツインブレード!」

両方からビームの刃が発生をして飛びあがり必殺技を放つ。

「マックスエンド!!」

ロボット一体を切り裂いて爆発させる。マックスレイダーは辺りを見た後に着想を解除をして両手を組んだ。

「こいつらはいったい・・・・・見たことがないロボットが襲い掛かってきたが・・・・・どうも嫌な感じがする。」

彼はそういいケルベロスを探すために場所へと向かう。

謎のロボット軍団

【ファイナルディメンション!シューティングバレット!】

ある一つの基地を破壊をしている人物が持っている銃から放たれた弾丸がロボット兵たちを吹き飛ばして爆発をさせる。

ロボット兵たちは相手に対して銃を構えている。だがその人物は魔法陣を発生させた後に左腰部からカードを出して持っている銃にスラッシュさせる。

【ウルトラマンタロウ!】

その人物の隣にウルトラマンタロウの幻影が現れて合体をして銃口にエネルギーがたまっていき放つとストリウム光線のようなビームが放たれて撃破した。

相手の指揮官と思われる人物は、現れた敵を見て驚いている。

「お、お前は!?まさか!」

「残念ですが、あなたたちはここまでです。」

「撃て!奴を倒せ!!」

ロボット兵たちが現れて相手に攻撃をしようとしたが、そこに神エボルトが現れてマントを使い攻撃をはじかせる。

「何をしているのですか!?」
「あら、まぁここは・・・・・・」
【ウルトラマンティガ!スカイタイプ!】
ウルトラマンティガスカイタイプが隣に幻影として現れて飛びあがりランパルド光弾のように放ち撃破していき、着地をすると背部から剣を抜いてカードをスラッシュさせる。
【シンケンジャー!】
シンケンジャーの五人の幻影が現れて彼女に合体をすると烈火大斬刀の幻影が発生をして一気に切り裂いて撃破した。
神エボルトはため息をついていた。
「全く、あなたさまはどうしてこうも動くのですか?まさか今まで別の基地の襲撃はあなたがしていたのですか?」
「ふふ、その通りですよ神エボルト。」
彼はため息をつきながらも膝をついて頭を下げる。彼女の方も変身を解除をして菱川　六花の髪が黒い姿をした女性になる。
「あまりこういうのはしないでほしいのですが?我がロア天界の伝説の超天神・女神メイライオス様。」

　メイライオスと呼ばれた女性は右手に持っている銃ギャレンラウザーをベースにディエンドのような召還能力及びその力を付け加えた「ガーベラ」及び背部に装備されているデュアルソードの色が青くそのカードの力をスラッシュさせることでその戦隊やライダー、メタルヒーローの技を使うことができる「ディメンションブレード」を装備をした人物こそロア天界にて伝説と呼ばれている人物超天神・女神メイライオスと呼ばれる女性なのだ。
「神エボルト、私が動いたのには理由があります。」
「理由・・・・・・」
「ロア天界及びスフィア天界を巻きこんだ事件が、起こる可能性があるのです。」
「!!」
　メイライオスの口からロア天界、スフィア天界・・・・・・二つの天界を巻きこんだ事件が起ころうとしているのを聞いて神エボルトは目を見開いた。
　彼女はそのため奴らの基地を自ら生成をしたガーベラを使った姿「仮面ライダーディメンション」に変身をして戦っていることを聞いた。
「そうだったのですか・・・・・・」
「神エボルト、あなたは神ジオウが別の世界で理事長をしているのは聞いておりますね？」

「はい、ロイヤル様からそのことは聞いております。娘達の方はサボっていると言っていたのを聞いております。」
「ですが、あの世界でも敵は動いているのです。そのため彼はある人物に呼ばれて理事長をしているのですよ。」
「そうだったのですか・・・・・・どちらへ？」
「次の場所へと行きます。」
「私もお供に。」
「いえ、あなたは自分の任務を遂行をしてください。」
「ですが・・・・・・」
「神エボルト、これは超天神メイライオスの命令です。いいですね？」
「はは!!」
　神エボルト達がそのような話をしている頃、ゴーカイジャーの面々はゴーカイガレオンに搭乗をして転生者を狩るため移動をしていた。
「皆――――」
「ご飯ができましたよーーーーー」
「おう来たわね！」
「アイちゃんが手伝ってくれたおかげだよーーー」

「いえいえ、麗華さんに比べましたら私なんてまだまだですよ?」
　アイちゃんは手へへといいながら、慧達はご飯を食べようとしたが警報がなったので朱里が立ちあがりモニターを起動させるとロボットのような二体がゴーカイガレオンに接近をしてきている。
「全く!こっちはこれからご飯を食べるところなのに!!総員戦闘配備!」
「「了解!」」」
「はいです!!」
　ロボットたちは両手に持っている銃を放ちゴーカイガレオンに攻撃をしてきた。
「バリアーシステム起動!」
「了解!バリアーシステム起動!」
　ゴーカイガレオンにバリアーが張られて攻撃がガードされる。

「左右のゴーカイキャノン発射スタンバイ!」
「左右ゴーカイキャノン発射スタンバイ!」
　左右にロボットが接近をして慧は発射の指示を出す。
「撃て!!」
　左右のゴーカイキャノンから弾が放たれて二体のロボットに命中をして爆発させる。

前方の方から攻撃が放たれるが、慧は突撃をするように指示を出して全速前進で先端のゴーカイケンで突き刺して撃破した。
「敵反応なし！」
「念のために宇宙用の探査機を飛ばして周りを警戒させておいて、その間に私達はご飯を食べましょう？」
「了解探査機射出させて警戒させておこう。」
「ついでにゴーカイガレオンのステルス機能を起動させておくね？」
「そうね。」
真理はステルス機能を起動させてゴーカイガレオンの姿が消えた。

怪獣の惑星

謎のロボット三体を撃破したゴーカイガレオン、慧は一旦休憩をするため近くの星に着陸をするように指示を出す。

真理は指示に従い近くの星へゴーカイガレオンを向かわせて着地させる。彼女達はどこかの惑星に着地をしたので詳しいデータを調べていなかった。

「朱里、悪いけどこの星のデータを検索をして頂戴?」

「わかった。ゴーカイガレオンのデータに検索させ・・・・・・」

すると地響きが起こったので一体何かとモニターを見ていると地底からグドンが現れてゴーカイガレオンに対して両手の鞭を使い攻撃をしてきた。

「「「「うわ!!」」」」

「グドン!?なんでこの惑星!?」

グドンは両手の鞭でゴーカイガレオンを攻撃をして、慧はｂｅａｍを掃射をするように言いビームが放たれてグドンが吹き飛んだ。

「仕方がないわ!合体よ!」

ゴーカイジャーに変身をしてゴーカイマシンが飛びだして合体をする。

「「「「完成！ゴーカイオー!!」」」」

ゴーカイオーに合体をしてゴーカイケンを構える。

「ド派手に行くわよ!!」

ゴーカイオーは接近をしてゴーカイケンを使いグドンのボディを切りつける。グドンは負けじと両手の鞭を使いゴーカイオーに攻撃をするが、ゴーカイオーはゴーカイケンでグドンの鞭を切りつけてからボディを切り裂く。

『ぐおおおおおおお!?』

「これでおわ!!って何？」

突然として後ろから攻撃を受けたので何かと見ているとサドラが現れて伸びる両手でゴーカイオーを後ろから突き飛ばしたのだ。

ゴーカイケンを落としてしまい、前の方からグドンが切られていない鞭でゴーカイオーを攻撃をする。

「こうなったら！」

「「「「レンジャーキーセット！レッツゴー！」」」」

ゴーカイオーのハッチが開いてそこから現れたのは、トッキュウオーとゴセイグレートである。

そう彼女達の力は本編のような力以外にもなんとスーパー戦隊のロボットを召還を

することが可能だ。
　今セットをしたのはトッキュウジャーのレンジャーキーを刺した後、ゴセイジャーのレンジャーキーをセットをして二体のロボットを呼びだしたのだ。
　トッキュウオーはフミキリケンでグドンに攻撃をしてダメージを与える。ゴセイグレートはグレートソードで同じようにサドラのボディを切りつけてダメージを与える。
　二体のロボットのパンチが放たれてサドラ、グドンを吹き飛ばすとゴーカイオーは立ちあがり二体のロボットの姿が消える。
「さーて止めを刺すわよ!」
「「「「レンジャーキーセット!レッツゴー!!」」」」
　ハッチが開いてゴーカイキャノンが構える。
「「「「ゴーカイビックボンバー!!」」」」
　ジャッカー電撃隊のレンジャーキーがセットされてそこから砲撃が放たれて二体の怪獣を撃破した。
　ゴーカイオーは分離をしてゴーカイガレオンに戻った後、この惑星が怪獣たちの惑星だということを聞いて慧は離脱をするようにいいゴーカイガレオンは発進をする。
　一方で仮面ライダーディメンションは別の基地を襲撃をして攻撃をしていた。背部から襲い掛かる敵に対してディメンションブレードを抜いて相手の攻撃を受け止めた

後にはじかせて切りつけて撃破した。
　彼女はカードを出してスラッシュさせる。
【仮面ライダーセイバー!】
　セイバーの幻影が現れて合体をして刀身に炎が纏われていき、前の方からこちらの方へと来ている敵に対して炎の刃が放たれて撃破する。
　ディメンションはブレードを元に戻して、変身を解除をしようとしたがすぐに右腰にセットをしている銃ガーベラを抜いて後ろを振り返り発砲をする。
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」
　撃破したであろう敵を見た後、超天神メイライオスは歩きながら司令室の方へと入りこんで彼女の力を使いハッキングをする。
「・・・・・・やはり、この基地でも同じような現象ね。調べようとしても出てこない・・・・・・か。」
　メイライオスはこの基地の用が終わったので出ようとした時襲い掛かってきたので彼女はしまったと思い構えていると斬撃刃が飛んできて、兵士たちが吹き飛ばされたのを見て振り返ると髪の色が青いドキドキプリキュアに出てきた剣崎　真琴のような人物がため息をつきながら現れる。
「全く、最後まで油断をしない。」

「ごめんなさい。まさかあなたもいるなんておもってもいなかったから。超天神ソードウェルス。」
　メイライオスは笑いながら、腰のガーベラを抜いて発砲をする。ソードウェルスも右手に光の刃を纏わせながら走りだして相手を切り裂いて撃破した。
　そして二人は脱出をして、外で話をする。
「それじゃあ、アナタもここに来たのは?」
「そう、奴らが動きだそうとしている。私も独自で動いていたけどこれからのことを考えるとメイライオスと行動をした方がいいと思ったの。」
「わかった。」
「さて、私たちを見ている奴出て来い!」
　一人の人物が苦笑いをしながら現れる。そう神エボルトであった。
「ま、まさか・・・・・ソードウェルス様も動いているとは思ってもおりませんでした。」
「確かお前は神レグリアだったか?」
「いえ、彼は神エボルト・・・・・・まぁあなたからしたらレグリアって言った方がいいわね。」
「?」
　ソードウェルスは神エボルト事レグリアに近づいていき、彼をじーっと見ている。

「えっと?」

「・・・・・・・・・・・・・」

すると彼女は突然として彼を抱きしめたので驚いてしまう。

「え!?」

「・・・・・・・レグリア、大きくなったわね、そうか・・・・・・私が天界を去ってからだいぶ経つからね。そりゃあ覚えていないのも当然ね。」

「え?・え?・え?・え?」

「全く、ウェルス・・・・・・肝心なところを説明をしていないから、彼混乱をしているわよ?」

「・・・・・・そうね、レグリア、あなたは覚えていないかもしれないけど私はあなたと会っているのよ。まだ小さいから覚えていないかもしれないけどね。私はあなたにとっては孫になるの。」

「うえええええええええええええ!?ってことはおばあちゃん!?」

「といっても私はライオスとほかの二人と共に世界を救うためにロア天界、スフィア天界から離れていたから、あなたが覚えていないのも当然ね。あの人が死んだと聞かされて・・・・・・さらにレグリア、あなたが死んだと聞いたときにもっとこうしてやればよかったと後悔をしていたの。だけどあなたが神エボルトとして復活をしたと聞いた

ときは驚いてしまったわ。いえ・・・・・・あなたの大きくなった姿を何度か見ていた。だけど声をかけることができなかった。」
「・・・・・・・・・・・・・・・・」
「あの人の最後を見ることさえもできなかった私は、おばあちゃんと名乗れなかった。ごめんなさい・・・・・・・・」
「ソードウェルス様、いえ今はおばあちゃんと呼ぶのをお許しください。おばあちゃん、私はこの通りレグリアとしての記憶を取り戻したのも随分前になります。ですが小さい時の記憶・・・・・・確かにあなたのような人を見たなと思ったことがあります。ですがこうしてまた会えただけでもうれしかったです。」
「レグリア・・・・・・ありがとう。」
「さてレグリア、奴らの基地を攻撃をしても情報を得ることは難しいわ。」
「そうね。ライオスのハッキングをしても情報を得ることができなかったのを見ると奴らはデータを削除をするシステムを組み込んでいることね。」
「そうでしたか・・・・・・厄介ですね。」
　三人は話した後、レグリア事神エボルトはまた向かうため二人も同じように離れることにした。
　ゴーカイジャー達の裏ではこんなことを起こっているなど誰も知らないのであった。

引き寄せられる。

怪獣たちの惑星でグドン、サドラに襲われたゴーカイジャーはゴーカイオーへと合体をしてトッキュウオー、ゴセイグレートと共に戦い撃破して脱出をする。

そして怪獣の惑星を脱出をしてゴーカイガレオンは次の転生者を探すため向かっていると突然としてゴーカイガレオンが揺れたので何事かと慧は聞いた。

「いったいどうしたの!?」

「ゴーカイガレオンが何かに引っ張られているわ!?」

「なんですって!?全速前進!!」

「さっきからしているわ！けど向こうの方が強くてゴーカイガレオンがどこかへ連れていかれている感じがするわ!!」

「一体何が・・・・・・・」

ゴーカイガレオンはどこかの星へと引っ張られてどこかの基地のような場所へと連れてこられてしまう。

彼女達は様子を見ていると、砲撃されてきたのでゴーカイガレオンはバリアー装置を起動させて防御をしている。

「こっちも砲撃を！」
「駄目！さっきの磁力の影響か使えないわ！」
「だったら外に出て戦うしかないわ！」
「だが子の砲撃の中外に出るのは危険だ!!」
「どうしたら・・・・・・」
　一方で外では帝国軍が砲撃を続けている。
「いいぞ！撃て撃て！我ら帝国の邪魔をする輩を「うなれホーリーソード!!」何!?」
　上空から剣型のエネルギーが発生をして兵士たちの銃を次々に切り裂いていく。慧達は一体何がと見ていると青い髪をした剣崎　真琴のような人物が兵士たちに蹴りを入れた。
「おのれ！って何!?」
　指揮をしていた人物達の足元が凍って動けなくなったので一体何かと見ると一人の人物が現れる。
「どうかな？凍らされる気分は？」
「全くメイライオス、わざとかしら？」
「そうでもしないと死んでしまうわよソードウェルス？」
「メイライオスにソードウェルスだと!?馬鹿な！超天神がなぜここに!?」

二人の超天神という存在が現れたのを知り帝国の司令官は驚いているが、彼女達は気にせずにゴーカイガレオンの方を見ていた。
「あら？動けないみたいね。」
「そのようね？」
【キュアダイヤモンド！】
「は!!」
氷の弾丸が放たれてゴーカイガレオンを閉じ込めていたエネルギーの柱が次々に壊されて行き、彼女はカードを装填する。
【仮面ライダーシステムオンライン！】
「変身！」
【仮面ライダーディメンション！】
銃のガーベラのトリガーを引いて装甲が装備されて仮面ライダーディメンションに変身をして背部のディメンションブレードをとりだして兵士たちが放った銃の弾をはじかせるとソードウェルスは接近をしてまわし蹴りを放ち兵士たちの銃を蹴り飛ばしていく。
【ファイナルディメンション！ディメンションシュート！】
「は!!」

銃口からビームが放たれて兵士たちは吹き飛んで行き、ソードウェルスは右手に光の剣を生成をして構える。
「おのれ！超天神どもが！我が帝国に攻撃をしてってどあ!?」
見るとゴーカイガレオンが浮上をして砲撃をして基地を攻撃をしていた。戦闘機が出撃をしようとしたがビームなどが放たれて出撃不能になっていた。
「さーて私達の出番はここまでのようね？」
「そのようね。」
二人はゴーカイガレオンが飛んでいるのを見て撤退をすることにした。基地司令官の方はゴーカイガレオンの砲撃を受けて基地の機能が低下をしているのを見て驚いている。
「お、おのれ!!」
「さて今のうちに離脱よ!!」
「「「おう!!」」」
ゴーカイガレオンは基地を攻撃をした後に浮上をして惑星を脱出をする。色々と巻き込まれたので慧達は疲れてしまう。
「全く色々と疲れるわね。」
「全くだ。」

「うんうん・・・・・・」
「とりあえず次の自動操縦形態にして休みましょ？」
「だな。」
そういって6人は部屋の方へと移動をして眠るのであった。

眠る慧達

メイライオス達のおかげで帝国が仕掛けた磁力マシンから脱出をしたゴーカイガレオンは宇宙空間をゆっくりと移動をしていた。

慧達は色々とあり疲れてしまい部屋の方へと移動をしてそれぞれで眠りについた。

アイちゃんは皆が眠った後もゴーカイガレオンの射撃ルームにいてゴーカイガンを構えていた。

「・・・・・・・うわ！」

だが反動が強く彼女は吹き飛ばされそうになるがなんとか耐えようとしている。自分は今は戦えないだけどあの人達の役に立ちたいという思いが強くなっている。

「うう、皆さんは今までの戦いで疲れています。だけど私は戦うことができません・・・・・・だからこうしてこっそりとやっているんですよね。」

アイちゃんはそういいゴーカイガンを再び構えて発砲をする頃、メイライオスとソードウエルスの二人は話し合いをしていた。

今回の帝国の動きなどを考えていると、裏でアーマインドが動いているじゃないかということである。

「ねぇメイライオス。」
「あなたもそう思う?」
「帝国軍がゴーカイガレオンを捕獲をしようとしていることなどを考えると、裏でアーマインドが動いているじゃないかって思うの。」
「私もそう思っているところ、奴の目的はエボルト、神ジオウ、カズマを殺すこと」
「な!?レグリアを殺すですって!?」
ソードウェルスはレグリアという単語を聞いて驚いており、メイライオス落ち着くように言い彼女はオーラを纏わせていたが消してメイライオスは話を続ける。
「さて落ち着いたかしら?」
「ええごめんなさい。それで?」
「そうね・・・・・・!!」
二人は何かに気づいて交わして構えるとアーマインドがドラゴンを二体を引き連れて来ていた。
「アーマインド!」
「奴が?」
「超天神の二人、私の邪魔をしないでいただきたいですね?行きなさい!!」
アーマインドの指示で二体の龍が二人に襲い掛かってきた。

「変身!」
「は!!」
【仮面ライダーディメンション!】
メイライオスは仮面ライダーディメンションに変身をして背部からディメンションブレードを抜いて竜に攻撃をする。
「はああああああああああ!!」
ソードウェルスは右手に光のセイバーを纏わせて竜に切りかかる。だが竜の鎧のようなものが装備されているのを見て改造をされていると判断をする。
「だったら!かめはめ波!!」
ソードウェルスはかめはめ波が放たれるが、竜は攻撃を受けて装甲が纏われているのが剥がされて行く。
「あれは・・・・・・」
【仮面ライダーセイバー!必殺読破!】
「は!!」
仮面ライダーセイバーの幻影が合体をして刀身に炎とが纏われて切りつける。だがロボット竜はその攻撃をガードをしてソードウェルスも苦戦をする。
「こいつ!なんて堅さなの!!」

「堅すぎるけど勝てないわけじゃない！」
「おばあちゃん！」
「!!」
　声がした方を見て彼女は振り返りキャッチをするとネオディケイドドライバーを持っていたので振り返ると戦兎が投げたのだろうと判断をする。
「これはネオディケイドドライバー？」
「おばあちゃんが使えるように改良をしていたんだ！使ってください！」
「・・・・・・遠慮なく使わせてもらうわ！」
　腰に装着をしてライドブッカーからカードを抜いて構える。
「変身！」
【カメンライド　ディケイド！】
　アーマーが纏われて行き仮面ライダーネオディケイド・・・・・・なのだが、どうみてもライダー少女のような感じになっておりディケイドだが、プリキュアのようにディケイドのアーマーが装着されたような感じになっており彼女自身も驚いている。
「これってどういうこと？」
「さぁ？」
「おそらくおばあちゃんの影響なのかもしれませんけど、なんといいますか・・・・・・」

「いくら姿が変わろうとも!」
ロボット竜は咆哮をしながらソードウェルスが変身をしたディケイドに突撃をしてきた。
だが彼女は竜に対してライドブッカーを構ているとライドブッカーが光りだして形が変わったことに驚いている。
「これって?」
大きさなどがキングラウザーのような形になり持っている部分を伸ばして折り曲げると刀身が縮まり銃口が現れたのを見て驚いている。
「ライドバスターとでも名付けましょうか?は!!」
トリガーを引きビームが放たれてロボット竜に命中をしてディメンションはディメンションアローを出して連続した矢が放たれる。
彼女はライドバスターの横部分を開いてカードをとりだすとアタックライドカードを腰にセットをする。
【アタックライドブラスト!】
銃口から連続した弾丸が飛んで行きロボット竜にダメージを与えてさらに拡散弾を放ちロボット竜の装甲を貫かせていく。
「はあああああああああああ!!」

飛びあがり持っている部分を先ほどと逆にすると銃口がしまわれて刀身が現れる。そのままカードを抜いて装填する。

【ファイナルアタックライド　ディディディディケイド!】

「でああああああああああああああああ!!」

刀身にエネルギー刃が集中をしてロボット竜が真っ二つに切り裂かれた。アーマインドは驚いておりディメンションは接近をしてアーマインドに切りかかるが、相手はそれに気づいてマントで攻撃をふさいだ。

「!!」

「ふ、油断をしていたわけじゃありません。ですがどうやらここまでのようですね。」

アーマインドはこの場から離脱をしていき、戦兎も用が終わったので撤退をすることにした。

「それはおばあちゃんにあげます。そのために渡したのですから。」

「でもよかったのか?これって確か並行世界の・・・・・・」

「構いません。俺は変身をするライダーなど多いですから。」

「・・・・・・わかったよ大事に使わせてもらうよ。」

ソードウェルスはそういい懐にしまいメイライオスと共に次の場所へと向かう。

次の場所が学校!?

宇宙空間を飛びながら、転生者達を狩っているゴーカイジャーの面々、彼らは次の転生者を探すために進んでいる。
「しかし、悪い転生者達はどれくらいいるのかしら?」
「さぁな、イクト君もそこは教えてくれなかったからな。」
「いずれにしても転生者達を狩るのがあたしたちの使命だもんね!」
「なら、新しい使命をあげるわよ?」
「「「「?」」」」
突然として別の声が聞こえてきたので、慧達は見ると二人の女性がゴーカイガレオンにいたので驚いてしまうが、彼女達は気にせずに椅子に座っているので慧は代表で話をする。
「えっとすみませんどちら様ですか?」
「あぁごめんなさいね。私の名前はソードウェルス、こっちはメイライオスって名前よ。」
「ソードウェルスにメイライオス?」

「まぁそちらのソードウェルスはレグリア、あなたたちからしたら紅　イクトの祖母と言った方がいいわね。」
「「「「イクト（君）のおばあさま!?」」」」
　五人はメイライオスの言葉を聞いて目を見開いている。ソードウェルスはどれだけあの子は好かれているのかしら?と思いながらも話が進まないので話題を変えることにした。
「さてあなたたちが転生者狩りをしているのは知っているわ。だからこそあなたたちの力を借りたいのよ。」
「私たちの力を?」
「どういうことだ?」
「メイライオス。」
「こことは違う世界・・・・・その場所にて邪悪な者が動こうとしているのです。そこにも転生者はいます。ですが・・・・・おそらく彼女たちだけでは苦戦をしてしまう可能性があるのです。」
「そうなのですか?」
「ええ、だからこそあなたたちの力が必要なのよ。」
「どうする慧?お前に任せる。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

慧は少しだけ考えてから答えを出すため、どうしようかと悩んでいるが、自分たちは弱きものを助けることもやっているので頼まれたことを断ることができないので答えを出す。

「メイライオスさん、ソードウェルスさん・・・・・・その依頼受けましょう!」

「ふふ、あなたたちならそう答えてくれると思っていたわ。ソードウェルス。」

「わかっているわ。」

ソードウェルスは立ちあがりゴーカイガレオンに目的場所を設定をした。彼女達はモニターを見てその場所が点滅をしているのを見てそこが目的の場所なのだな?と思いながら見ていた。

「点滅をしている場所があなたたちが向かうべき場所、私達も共に行くわ」

「そうね、あの子達がいるからね?」

「よし真理!ゴーカイガレオンをその場所へと発進!」

「はいよ!ゴーカイガレオン全速前進!!」

ゴーカイガレオンが向かっている頃、アーマインドはどこかの学園の前に現れる。何かの本を開いて呪文を唱えるとそこからゾンビ兵、ライオトルーパーなどが現れて生徒たちに襲い掛かろうとしていた。

「さぁてやりなさい！」
　アーマインドは指示を出してゾンビ兵たちは生徒たちに襲い掛かろうとした時高熱火炎が放たれてゾンビ兵たちが焼かれていく。
　アーマインドは前の方を見ると謎の仮面ライダーが立っているのを見て驚いている。
「おやおや、この世界にも仮面ライダーは存在をしていたのですか。」
「何者だてめぇ、見たことがない奴だな・・・・・何者だ？」
「自己紹介をしておきましょう。私の名前はアーマインド！あなたたちの世界を壊すためにやってきました。キャロル・マールス・ディーンハイムさん？」
「俺のことを知っている感じだな。悪いが学校を壊されるわけにはいかないんだよ！」
　キャロルが変身をした姿、仮面ライダークウガブレイズは走りだしてライオトルーパーに対して右手に専用武器「アルケミーブレードガン」が装備されてライオトルーパーのボディを切りつけてダメージを与える。
　ゾンビ兵たちは弓を放ったが、全てを炎で相殺をしてアルケミーキーを装填する。
【Ｍａｘｉｍｕｍ！ｔｒａｎｃｅ　ＵＰ！ＦＬＡＭＥ！ＳＬＡＳＨ　ＢＲＥＡＫ！】
「燃え尽きろ!!」
　放たれた炎の斬撃がライオトルーパー達を切り裂いて撃破した。
「ほーう流石、この世界の仮面ライダーですね。なら次は私が相手をしましょう!!」

「!!」
　クウガブレイズは構えているとアーマインドの姿が消えたので驚いてしまう。
「な!?」
「後ろですよ?」
「が!!」
　いつの間にか後ろに現れたアーマインドにクウガブレイズは吹き飛ばされてしまい、ほかのフォームにチェンジをしようとしたがそのタイミングがない。
（くそ！敵が速すぎてほかのフォームにチェンジをすることができない！どうしたらいいんだ!!）
【ウルトランス！アパテースピアー！】
「であ!!」
「ほーうまだ仲間がいるとは・・・・・ですが！」
　後ろから別のプリキュアも現れて攻撃を加えようとしたが、アーマインドは衝撃波を放ち二人を吹き飛ばす。
　その様子を見ている人物は腰にドライバーを装着をして向かおうとしたが、一人の女性が止める。
「待ちなさい神ジオウ。」

「ですがこのままでは！」
「大丈夫、彼女達が来てくれたから。」
「彼女達？」
　一兎は上の方を見るとゴーカイガレオンが現れたのを見て驚いていると五人組の戦隊がゴーカイガンをアーマインドに放ちながら降りてきた。
（な!?ゴーカイジャーだと!?）
「随分と楽しそうなことをしているじゃないアーマインド？」
「ほーうあなたたちまで追いかけてくるとは、正直に言えば驚いています。
「あんたがこの世界で何かをしようとしているのを聞いてね。飛んできたわけよ。」
「仕方がありません。ここは一旦離脱をさせてもらいます。」
　アーマインドは地面に光弾を放ちゴーカイジャーは現れただけなので、クウガブレイズたちを見ている。
（なるほど、この世界の戦士達ね。クウガの姿だけど別の姿も感じるわね。）「さて、そこのあんた大丈夫かしら？」
「あぁ、助かった。あんたたちは？」
「様々な時空を飛び回る宇宙海賊だけ言っておくわ。」
　その様子を理事長室でみている一兎、そしてもう一人の人物「鳴海　マナカ」の二人

がいる。
「さて一兎、悪いけど彼女たちをこちらへ呼んできてほしいわ。」
「わかりました。」
「それと四葉も呼んでほしいのよ。」
「え?シールヴェルク様もですか?」
「ええそうよ。なにせ懐かしい人物達が乗っているからね（笑）」
マナカは笑いながらゴーカイガレオンを見るのであった。

会合

慧side

私達は、メイライオスさん達と一緒に次元ホールを通りどっこかの学園に到着をした。その下でアーマインドが何かと交戦をしているのを見て私達はゴーカイガンを放ちながらおりて攻撃をするが相手に逃げられてしまう。

しかも変身を解除をした時に現れたのがシンフォギアに登場をしたキャロルだったので驚いているし、ほかにも知らないプリキュアのような人もいるので驚いているけど、よーく見たらメイライオスさんとソードウェルスの姿もドキドキ・プリキュアに登場をした人物に似ているのは気のせいよね？

私達は学園の偉い人理事長室の方へと連れていかれるけど・・・・・・

「ねぇキャロル？」

「なんだ？」

「この子どうにかしてくれない？」

「ちゅーちゅー」

そう先ほどから私の血を吸っている子をどうにかしてほしい。キャロルはため息を

つきながら何かを投げつけて顔面に命中をした。彼女はチラッと見てからもらったパックを吸っているのを見てため息をついた。
てか血を吸われたけど大丈夫かしら?
そして私達は理事長室の扉の前に到着をする。メイライオスさんとソードウェルスさんも同じようについてきており扉が開いて三人の人物が迎えてくれる。
「ようこそ、私立輪音学園へ歓迎をする。俺はここの理事長をしている常磐　一兎だ。」
「始めまして?と言った方がいいわねゴーカイジャーの皆さん、私は教師兼会長をしている鳴海　マナカよ。」
「私は野薔薇　四葉といいますわ。さてお久しぶりですね?メイライオス、ソードウェルス。」
「全くよ。あんたたちも元気そうじゃない。」
「まぁね、やっぱりメイがいないと寂しいよーーー」
「はいはい。」
マナカはメイライオスに抱き付いてきたので彼女は仕方がないなと頭を撫でている。その様子を見て一兎は唖然としている。
「えっと?」
「あーそういえば自己紹介をしていなかったわね。始めまして私はメイライオス。」

「私はソードウェルスというわ。そこの二人と同じってことよ？」
「な!?大変申し訳ありませんでした!!」
「あのー？」
　私達は色々と混乱をしているので一兎って言われた人はこちらに気づいて謝る。
「すまない、色々とこちらも頭が抱えることが多くてな。改めてうちの生徒たちを助けてくれて感謝をするよ。」
「いえいえ、さてこちらの自己紹介をしましょう。私は橋野　慧。」
「私は木奈崎　朱里だ。」
「あたしは浅倉　真理よ。」
「私は姫島　麗華です！」
「私は七島　優奈といいます。」
　自己紹介を終えてキャロル達の自己紹介を聞くことにした。
「改めて俺はキャロルだ。」
「藤堂　ユリカよ。血ごちそうさま。」
「七瀬　ゆいです。」
「さて自己紹介が終わったところで・・・・・・って何事かしら？」
　音が聞こえてきたので外の方を見るとビルドに登場をしたガーディアンが暴れてい

るのを見て私達は向かうことにした。
「さて行くわよ!」
「「「おう!!」」」
急いで現場の方へと向かおうとしたけど、学園の中を知らないのでキャロル達の後についていくことにした。
慧ｓｉｄｅ終了
一方学園の中でガーディアンが暴れていると弾丸が放たれて一人の女性が立っている。
「こいつらは悪縁ってやつだな?なら困っている奴を見逃すことはできないな。さーてお見せしましょう!アバターチェンジ!!」
【ドンモモタロウ!ネオ・ドンブラスター!】
ガーディアン達はドンモモタロウが現れたの見て持っている銃を構えるが、彼女は走りだしてサングラソードを構えてガーディアンを攻撃をしていく。
「甘い甘い!」
左手にネオドンブラスターを構えてガーディアンのボディに命中させて撃破した。だがガーディアン達はまだいるので彼女は構えようとした時弾丸が放たれてガーディアン達に命中をした。

「なんだ？」
　現れたのは慧達にキャロルだ。
「おい大丈夫か？」
「おうキャロル！ってこいつらは？」
「助っ人って言ったところよ？さてやりますか!!」
「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
【ゴ――――カイジャー――――!!】
「キバナス！
『おうよ！キバってイキマショータイム！』
「いつもよりもテンションが高いわね。」
「プリキュア！ウルトライブ！」
【ストーン！】
「変身!!」
【ＤＥＦＥＮＳＥ＆ＲＯＣＫ！ＦＩＳＳＵＲＥ　ｉｎ　ｇｒｏｕｎｄ！ｋｕｕｇａ　ＢＬＡＺＥ！ＳＴＯＮＥ！】
　ゴーカイジャー、キュアエンパイア、キュアディアナ、仮面ライダークウガブレイズストーンフォーム、ドンモモタロウというメンバーが集結をする。

「さーて今回は大人数でドハデに行くわよ!!」
　ゴーカイガンを放ちながらガーディアン達に攻撃をして撃破していく。
「はあああああああああ!」
　キュアエンパイアが接近をしてガーディアン一体のボディを殴り飛ばす。さらにガーディアン一体の手をつかんで投げ飛ばしてそのまま上に乗り殴り続ける。
【ウルトランス!デスフェンサー!ガトリング!】
　左手がデスフェンサーのガトリング砲へと変えてキュアディアナは発砲をしてダメージを与えると足部にエネルギーを込める。
「ディアナビクトリウムスラッシュ!!」
　蹴りと連動をしてビームが放たれてガーディアン達に命中をして撃破する。
「なら電撃で痺れさせます!」
【ウルトランス!エレキングテイル!】
　右手が変わりエレキングの尻尾へと変わりガーディアン達を巻き付けて電撃を浴びせる。
「あれをやるわよ!」
「えぇ!」
「わかった!」

「やりましょう。」
「はい！」
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
【ウールトラマン！】
【ティガ！】
【ダイナ！】
【ガイア！】
【アグル！】
【コスモス！】
　ゴーカイジャーの姿がウルトラ戦士達の姿へと変わったの見てクウガブレイズは驚いている。
「何!?ウルトラ戦士になれるのかよ！」
「海賊版だけどね！」
　五人はそれぞれで散開をして交戦を開始する。コスモスに変身をしたゴーカイピンクはガーディアンの銃をガードをした後コロナモードへと変身をしてブレージングウェーブを放ちガーディアンを撃破した。
　アグルに変身をしたゴーカイグリーンはアグルスラッシュを放ちながらガーディア

ン達に攻撃をした後後ろを振り返りフォトンクラッシャーを放ち撃破する。
ガイアになったゴーカイイエローはガーディアン一体にラリアットを噛ました後、後ろから攻撃をしてくるガーディアンにガイアスラッシュを放ち撃破した後、フォトンエッジを放ちガーディアン一体を撃破する。
ダイナになったゴーカイブルーはストロングタイプへと変身をしてダイナックルを放ちガーディアン一体を吹き飛ばして爆発させるとガルネイドボンバーを放ちガーディアン達を撃破した。
ティガになったゴーカイレッドは飛びあがりウルトラキックを放ちガーディアン一体に命中させた後にハンドスライサーでガーディアン達を撃破する。
そしてゼペリオン光線を放ちガーディアン達を撃破する。
クウガブレイズとドンモモタロウはアルケミーストーンソードとサングラソードを使いガーディアン達を切りつけて倒していく。
「くそこいつら!」
「だけど縁が増えてうれしいわね!」
「今はそんなことを言っている場合か!!」
すると炎の龍が飛んできたので二人は交わして全員が見るとアーマインドが魔法で攻撃をしてきたので全員が構え直す。

「まさかあの不意打ちの魔法を交わすとは思いもしませんでしたけどね。」
「アーマインド！」
「まさかガーディアン達を倒すとおもってもいませんでしたよ。あの数をね・・・・・・・
まぁいいでしょう。ここは撤退をしましょう。」
　アーマインドはそういって撤退をしていく中、キャロルはクウガブレイズの姿のまま考えていた。
（あのアーマインドの奴何を考えている？ガーディアンの数などを見ても落とすなら数を多くすればいいのに、何か嫌な感じがするぜ。）
　アーマインドの考えがわからないのでキャロルは相手の動きを読むことができなかった。

扉から現れた人物

アーマインドがゾンビ兵、ガーディアン達を使いキャロル達がいる学園に攻撃を仕掛けてきた。
だが慧達ゴーカイジャーにキャロルが変身をしたクウガブレイズ、キュアエンパイア、キュアディアナ、ドンモモタロウの活躍によりアーマインドの攻撃を退けることに成功をした。
現在慧達は学園の許可を得て学園の見学をしているところである。案内をキャロル達に理事長の一兎の命令で案内をしてもらっている時、理事長室では四人の超天神が集結をしており一兎はすごくいずらい状態だ。
すると理事長室の扉が現れたので一兎はまさか?と思い見ていると扉が開いて現れた人物が一兎をアイアンクローをお見舞いさせる。
「ぐおおおおおおおおおおおお!!」
「・・・・・・・・・・・・・・・」
そう神エボルトである。彼は一兎の頭をアイアンクローでつかんで彼自身はあまりの痛さに頭を抑えている。

「おい！マジでお前の痛いんだぞ!?てか久しぶりにあったと思ったらなんでアイアンクローをお見舞いさせやがる!!」
「やかましい！いきなり慧達の気配が消えたと思ったら。どこだよここ・・・・・・・」
「まぁ待ちなさい神エボルト。」
「あなた達は・・・・・・いやこの力はまさか!?超天神様!?」
　神エボルトもマナカ達から発する神の力を感じて膝をついており、メイライオス達は気にしない方がいいのになと思いながらお茶を飲んでいる。
　一方でキャロル達は慧達が乗っているゴーカイガレオンの中を見ていた。
「おーすげーな！」
「色々と重要な機械類があるから、あまり触らない方がいいわよ?」
「これってレンジャーキー達が入っている宝箱だな?」
　全員が色々と見ている頃、アーマインドは戦力増大のためある場所に交渉をしているところである。
「なるほど、奴らを倒す為我らの力を借りたいのか?」
「はい、あなたたちの力になりたいのでございます。それで量産型のダークマーチをお借りしたくて参りました。」
「いいでしょう。連れていくがいい。」

「感謝申し上げます。」
アーマインドが交渉をしていたのは、キャロル達が戦っているダークプリキュア達のところであった。
量産型のダークマーチをもらったアーマインドは彼女達を連れて帰り魔法陣で強化魔法を施していた。
「さて行きなさい！」
「「「はは!!」」」
一方で慧達はキャロルに連れられて街の方へと移動をしていた。色々と街も変わっていることもあり別世界だなーと改めて確信していると爆発が起こったので一体何かと走りだす。
「いったい何があったの!?」
「あれはダークマーチ!?」
「てかたくさんいない？」
真理の言葉に全員が見ると量産型のダークマーチたちは気づいて攻撃をしてこようとしてきた。
「「「「ゴーカイチェンジ!!」」」」
「変身!!」

ゴーカイジャー及びクウガブレイズに変身をしてゴーカイジャーはゴーカイガンを放ち相殺をするとクウガブレイズがアルケミーソードガンを構えてダークマーチ達を切って吹き飛ばすが、すぐに起き上がってきたので驚いている。
「何!?」
「嘘攻撃をくらっているのに起き上がったの!?」
「ふふどうやら私の魔法の力が聞いているみたいですね?」
上の方を見るとアーマインドが浮いておりキャロルは構える。
「てめぇがこいつらに何かをしたのか?」
「えぇ、彼女達から借りてきて魔法で強化をしたのですよ。さらにユニゾン!」
アーマインドがユニゾンという単語を言うと量産型ダークマーチに怪獣の幻影が合体をする。
一体がEXレッドキングのような両手へと変貌、もう一体がレイキュバスの幻影が合体をして両手が鋏へと変わる。
「何!?」
「変わったの!?」
「やりなさい。」
「「うおおおおおおおおおおおお!!」」

二体のダークマーチが襲い掛かってきた。ゴーカイレッド、グリーン、イエローがEXレッドキングの力をもったダークマーチ、ブルー、ピンク、クウガブレイズがレイキュバスの力を持ったダークマーチと交戦をする。
「うおおおおおおおおおおおおお!!」
巨大化した両手を振りまわして攻撃をするダークマーチ、イエローとグリーンはそれぞれサーベルとガンを入れ替えて攻撃をしている。
「うわ!でかすぎるでしょ!?」
「だったらこれでやりましょ?」
「だね?」
「うん!」
「「ゴーカイチェンジ!!」」
【メータルヒーロー!】
【カーブター―ック!】
【ローボターーック!】
【ウイーンスペクター!】
レッドがカブタック、イエローがロボタック、グリーンがファイヤーにゴーカイチェンジをして両手を振りまわすダークマーチに対してファイヤーは右腰につけているデ

イトリックＭ―２を抜いてレーザーガンを放ちダメージを与える。
　そこにロボタックになったイエローがアールギャリバーを構えてボディを切りつける。
「行くわよ！ビートショック！」
「びりびりびりびり！」
　ビートスティックを接触させたビートショックがダークマーチのボディを痺れさせてダメージを与える。
　一方でレイキュバスの力を加えられたダークマーチの口から火炎弾が放たれてゴーカイブルーがゴーカイサーベルではじかせる。
「共にまいりましょう？」
「あぁだったらこの姿だ!!」
【Ｇａｉｌ!!】
「超変身！」
【Ｋｕｕｇａ　ＢＬＡＺＥ！Ｇａｉｌ!!】
　仮面ライダークウガブレイズ　ゲイルに変身をして専用武器ゲイルディアラーが現れてアローソードモードにしてゴーカイピンクのゴーカイガンと共に発砲をしてダメージを与える。

「レイキュバスの相手ならウルトラマンだ!·ゴーカイチェンジ!」
【ウールトラマン!·ダイナ!】
ゴーカイブルーの姿が変わりウルトラマンダイナへと変身をして突撃をして蹴りを入れる。
アーマインドは様子を見ている。すると後ろから光弾が放たれたのではじかせるとドンモモタロウ、キュアディアナ達がいたのでアーマインドはそちらの相手をすることにした。
「いいでしょうこの世界のプリキュアの力、どれほどのものか見させてもらいます!!」
「さてとどめと行くわよ!!」
レッド、イエロー、グリーンはレンジャーキーをサーベルとガンにセットをして構える。
【ファーイナルウェーブ!】
「「は!!」」
ゴーカイガンの弾丸にサーベルが加わった一撃がダークマーチに命中をして撃破した。
一方でピンクはゴーカイガンにレンジャーキーをセットをしてクウガブレイズはディスクを回転させる。

【ファーイナルウェーブ！】
【ＣＨＡＮＧＥ！１！２！３！ＦＥＶＥＲ！Ｔｅｍｐｅｓｔ　Ｓｗｏｒｄ　ＡＲＲＯＷ　ｓｔｒｉｋｅ！】
「は!!」
「シュワ！」
　ダイナのソルジェント光線と同時に放ち撃破した。そしてアーマインドはドンモモタロウ達に苦戦をしている。
「ええい！神エボルト達を殺すのにあなたたち如きに苦戦をするなんてね！は!!」
「はっはっはっは！甘い甘い甘すぎるわ!!」
　ドンモモタロウの斬撃を受けてアーマインドは後ろの方へと下がると弾丸が当たり振り返るとゴーカイジャー達とクウガブレイズが構えているのを見て量産型がやられたのかと思い撤退をする。
　その様子を神エボルト達は見ていた。
「あれがこの世界の仮面ライダークウガブレイズか、なんだろうか？名前がお前のジオウブレイズに似ている気がするけど？」
「・・・・・・気のせいだろ？うん。」
「まぁいいか、彼女達が無事ならいいさ。」

「帰るのか？」
「あぁそれと言っておくけどソードウェルス様、うちのおばあちゃんだからね？」
「は？」
　そういって神エボルトは次元の扉を開いて帰っていき、残された一兎はソードウェルスが神エボルトのおばあちゃんだって聞いて驚いてしまう。
「なんだとおおおおおおおおおおおおお!?」

ゴーカイレッド対クウガブレイズ

ここは学園の中庭、橋野　慧とキャロルが中心に立っておりお互いに構えていた理由はキャロルが慧の力を知りたいということでそれを承諾をしたことにより模擬戦が行われることになった。

「それじゃあキャロル準備はいいかしら?」

「あぁ手加減はするなよ?」

「そっちこそ?」

キャロルはドライバーを装着をして、慧はモバイレーツを構えてレンジャーキーをセットをする。

「変身!」

「ゴーカイチェンジ!!」

クウガブレイズフレイムフォーム、ゴーカイレッドに変身をして構える。アルケミーガンとゴーカイサーベルとゴーカイガンをお互いに構えており、全員が見ている中ゴーカイレッドがゴーカイガンを放ちながらクウガブレイズに攻撃をしてきた。

アルケミーガンを使いゴーカイガンはじかせるとゴーカイサーベルを受け止める。

蹴りをいれてゴーカイレッドは飛びながらレンジャーキーをセットをする。
「ゴーカイチェンジ！」
【カーメンライダー！スカイライダー！】
　スカイライダーに変身をしてセイリングジャンプで飛びながらアルケミーガンの弾を交わしていく。
「だったら！超変身!!」
　クウガブレイズゲイルフォームに変身をしてゲイルディアラーを構えて風の力で飛びあがりスカイライダーのボディを切りつける。
「く！だったら!!ゴーカイチェンジ!!」
【カーメンライダー！スーパー1！】
「チェンジ冷熱ハンド！超高熱火炎!!」
　右手から高熱火炎が放たれてクウガブレイズにダメージを与えるとさらにゴーカイチェンジをする。
【ウールトラマン！レオ！】
「これで決めるわ!!」
「だったら!!」
【ダブルブレード！】

ディスクを三回回転させてデュアラーの刀身に風が纏い始める。
「えいやあああああああああああああ!!」
レオキックの態勢になり放たれる。
「うおおおおおおおおおおおおおお!!」
レオキックとニンジャディアラーが激突をして全員が衝撃に備える。お互いに吹き飛ばされて変身が解除された。
「さ、流石ね?」
「お前もな・・・・・・」
その様子を理事長室で見ているメイライオス達、紅茶を飲みながら見ている。
「流石この世界を守るだけはあるわね?」
「そっちだって、ウェルスさんのお孫さんが選んだかたですよね?」
「流石レグリアよ。ふふふふふふふふ」
「・・・・・あのー」
「「「何?」」」
「いえなんでもありません。」
一兎はどうしてここで紅茶を飲んでいるのだろうか?と声をかけようとしたが四人から放たれるプレッシャーに負けてしまい言うことができなかった。

一方でアーマインドは何をしているのか?自身が借りている基地で何かの作業を行っている。
「アーマインドさま、まもなく準備が完了です。」
「ええご苦労様です。さぁいよいよですね・・・・・起動しなさい!メカゴリラ!!」
両目が点灯をしてメカゴリラはドラミングをしながら出撃をしていく。

メカゴリラの襲来

クウガブレイズとゴーカイレッドの模擬戦の激突はゴーカイチェンジをしたウルトラマンレオのレオキックとクウガブレイズのライダーキックが激突をして引き分けに終わる。

一方でアーマインドは新たなメカ「メカゴリラ」を作りだして出撃をさせる。

その頃、慧達は制服を着させてもらっていた。

「懐かしいわね。」

「あぁ、昔は学校に通っていたのを思いだした。」

「うんうん。」

「ん？あなたたち学校に通っていたの？」

「ええ昔だけどね？」

そんな話をしているとゴーカイガレオンが揺れたのでモニターを表示させるとメカゴリラが剛腕でゴーカイガレオンを殴っている。

「「「どあああああああああああ!!」」」

「ええい！ビーム発射!!」

ガレオンからビームが発射されてメカゴリラが吹き飛んで、キャロル達はゴーカイガレオンから降りると慧達はゴーカイジャーに変身をしてゴーカイガレオンからゴーカイマシンが現れてゴーカイオーへ合体をする。

メカゴリラは起き上がりドラミングをしてゴーカイオーに向かって突撃をしている頃、キャロル達は地上で黒影トルーパー部隊に襲撃されていた。

「この野郎!」

クウガブレイズはアルケミーガンをガンモードへと変えて発砲をして撃破しているとドンモモタロウ達が現れて黒影トルーパー達を攻撃をしていた。

「なんだこいつら?」

「さぁな、アーマインドが呼びだした奴らってことだろ?」

サングラソードとアルケミーブレードガンで黒影トルーパー達を切りつけるとキュアディアナは飛びだして右手が変化して構える。

【ウルトランス!バルタン星人シザース!】

右手がバルタン星人の鋏になり口が開いて冷凍光線が放たれて黒影トルーパーが凍るとキュアエンパイアは構える。

『さーてウェイクアップ!!』

周りの景色が暗くなり彼女は右足を思いっきり上げるとキバナスがキュアエンパイ

アの右足のカテナを解放させて飛びあがり必殺技「ダークネスムーンブレイク」が凍った黒影トルーパー達を粉砕をして撃破した。
「さーてお見せするわよ!アバターチェンジ!」
【ライダー!クウガ!よ!２０００の技!】
仮面ライダークウガの姿へと変わり飛びあがりマイティキックを放ち黒影トルーパー達を撃破してから着地をして次のアパタロウギアをセットをしてまわす。
【ライダー!龍騎!戦わなければ生き残れない!】【ストライクベント!】
右手にドラグクローが装備されてドラグクローファイヤーが放たれて撃破した。メカゴリラはバナナ型の爆弾をとりだしてゴーカイオーに向かって投げてきて命中をしてゴーカイオーはダメージを受けてしまう。
「バナナ!?」
「バナナだな。」
「バナナですわね?」
「どうするの!?」
「とりあえずレンジャーキーをセットをしてやるわよ!」
「「「「レンジャーキーセット!レッツゴー!!」」」」
ゴーカイオーのハッチが開いてそこから現れたのは、ジェットイカロスが現れて変形

をしてイカロスハーケンが突撃をしてメカゴリラが後ろへと倒れた。
「さらにもういっちょうＳＥＴ!!」
　さらにハッチが開いてダブル、オーズ、フォーゼ、ウィザード、鎧武のマークが発生をした後に彼らがメカゴリラに突撃をして攻撃をしてした後ゴーカイオーがゴーカイケンでメカゴリラのボディを切りつけて撃破した。
　アーマインドはその様子を上空から見ていた。
「まさかメカゴリラがやられるとは思ってませんでしたね。おっとあなたがいるのを忘れていましたよ神ジオウ。」
　現れたのは一兎が変身をしたアブソリュートジオウだ。彼は構えている。
「アーマインド!お前はここで倒す!!」
【モグラ!ゲノミクス・・・・・・】
　右手にモグラゲノミクスが装備されてアーマインドに対して攻撃を仕掛ける。すると彼に装甲が装備されてモグラゲノミクスを受け止めた。
「何!?」
「私がいつまでも考えがないと思いまして?は!!」
「ぐ!!」
　蹴りを受けると全身が装着されていき、仮面のバイザーの両目が点灯をする。

「名付けるとしたらアーマーベスティンと言っておきましょう。」
「はあああああああああああああ!!」
「うおおおおおおおおおおおおお!!」
　アブソリュートジオウとアーマーベスティンが激突をする。
「くらいなさい!!」
　アーマーベスティンから光弾が連続して放たれるが、アブソリュートジオウには当たらず色んな方角へと飛んで行く。
「おや?私の攻撃を曲がらせたのですね?なるほど・・・・・・ゲノミクスチェンジに重力方向を変えるなど・・・・・・なるほどなるほど、なら接近戦ならどうですかな?」
　光弾攻撃をやめて接近戦を行う、アブソリュートジオウはバイスタンプを押した。
【ライオン!ゲノミクス】
　両手が変わりサメの背びれのようなブレードが装備されて炎を纏わせて斬撃を浴びさせる。
　アーマーベスティンもビームセイバーを展開をして激突をする。アーマーベスティンは離れると胸部にエネルギーがたまっているのを見てジオウはバイスタンプを押す。
「くらいなさい!」
【マンモス!】

ビームが放たれてジオウに命中をした。アーマインドはふふと笑っているが煙が晴れるとジオウの両手にグレイシャシールドが装備されてアーマーベスティンの攻撃をふさいでいる。
「残念だったな?さて決めさせてもらうってぐお!!」
必殺技を決めようとした時上空から光弾を受けて地上へ落下をしてしまう。全員がゴーカイオーの中のゴーカイジャー、クウガブレイズ達は上空を見るとアーマーベスティンは驚いている。
「な、なんですって!?」
「なんだ?」
「ぐうう・・・・・・・・・・」
すると上空から何かが空中に浮かんでおり、アーマーベスティンは頭を下げている。
「・・・・・・不覚を取っているようだな?アーマインドよ。」
「も、申し訳ありません・・・・・・・我が主・・・・・・「マナレリスト様」」
「「「マナレリスト?」」」
「・・・・・・まぁよい、まずは・・・・・・」
彼は右手のエネルギーをためて放ち、ゴーカイオーに命中をして吹き飛ばされて大ダメージを受けてしまう。

「「「「きゃあああああああああああああ!!」」」」

ゴーカイオーは機能停止をして、アイちゃんは念のため学園の方に避難をしており、四人の超天神はじーっと見ていた。

「あれがマナレリスト・・・・・・・」

「この世界で何をする気なのかしら?」

マナレリストは着地をして、キュアエンパイア、ネオドンモモタロウ、キュアディアナが構えている。

ゴーカイジャーの面々も武器を構えてクウガブレイズも様子を見ているとマナレリストはため息をついた。

「愚かな、貴様達の力で我を倒せるとでも思うのか?」

「やってみないとわからないだろ!!」

「待て!!」

全員が突撃をしていくがするとマナレリストは何もしていなのに彼らの後ろに立っている。

「え?」

すると全員が大ダメージを受けて変身を解除されてしまう。

「が・・・」

「あが・・・・・・」
「だから言っただろ？貴様達の力で我を倒せるとでも思うのか？と・・・・・・」
「く・・・・・・」
「これで終わりだ!!」
『ＲＥＡＤＹＧＯ!!』
「何？」
「はあああああああああああああ!!」
　すると扉が現れてマナレリストにライダーキックを噛ます人物が現れる。
『『マックスインフィニティーフィニッシュ!!』』
「!!」
　マナレリストは両手でガードをして衝撃を相殺をしてマックスインフィニティーのビルドのライダーキックを受け止めた。
「・・・・・・・・・・・・・・」
「ほーう神エボルト、貴様が来るとはな・・・・・・」
「どうも嫌な予感がしてやってきたが、お前がいるとなると話は別だ。」
　彼は胴体に蹴りを入れて反転をして着地をする。
「戦兎・・・・・・」

「大丈夫か？一兎。」
「あぁ・・・」
「マナレリスト様、ここは私が！」
「・・・・・・・いやここは撤退をするぞ。アーマインド・・・・・・・」
「御意のままに。」
　二人は撤退をしていき、ビルドとアブソリュートジオウは変身を解除をして、戦兎は慧達のところへと走っていく。
「慧！朱里！真理！優奈！麗佳!!今回復させるからな？全員の傷を癒したまえ・・・・・」
　彼は両手を組み光りだすと慧達の傷が回復をして、彼女達は起き上がる。
「い、イクト君・・・・・・」
「・・・・・・・すまない、俺の到着が遅れて・・・・・・・」
「うえええええええええん」
　五人は彼に抱き付いてないたのを見ているとじーっと見ていると二人組がいる。
「お父さん・・・・・・・」
「お父様・・・・・・・」
「麗華と零児!?お前達も来ていたのか!?」
「はい、ってか私たちだけじゃないんですよね？」

「うん。」
「イ・ク・ト?」
「イ・ク・ト・く・ん?」
抱き付かれているので振り返ることができないが、ぎぎぎと見ているとアリスと麗衣の二人が両手を組み立っていた。
慧は気づいた。
「あら?アリスに麗衣じゃない、なんであなたたちがここに?」
「決まっているじゃん!イクトをお前達に取られないためだよ!!」
「そうよ!!これ以上増えるなんてごめんよ!!」
「ふふふ残念ね?イクト君は私達がもらうわよ?」
「うん。」
「約束だもんね?」
「「どういうことかな?」」
「・・・・・・・・・・・・・・」
マナレリストの襲撃から助けに来たのは戦兎達だった。果たしてマナレリストの復活をしたことによりアーマインドの活動が強くなるのか?